夏期號

新女界

第二巻　第七號

明治四十三年七月一日發行（毎月一回發行）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界 第貳卷第七號 夏期號目次

◉廣く人に接せよ　安井哲
◉不朽の人格　海老名彈正
◉涼しき慈善　倉橋惣三
◉ゆきあつたりばつたり集　內ケ崎作三郎
◉如何にして暑を消すべきか　元良よね
◉海の幸　小山菊野
◉割烹は最良の消夏法　嘉悅孝子
◉ユダヤの女　別所梅之助
◉信仰美談　渡瀨常吉
◉吾國女性の消息文　海老名一雄
◉夏の伯林　中村春雨
◉磐手山、八ケ嶽登山記　野口ゆか子
◉「シヤム」の避暑　安井哲
◉靈性の滿足　宮川經輝
◉消夏の方法に關する諸先輩の開書
村田勤氏、宮田脩氏、下田次郎氏、成瀨仁藏氏、赤星仙太氏、向軍治氏、矢島揖子氏、川島芳子氏、弘田增子氏、櫻井ちか子氏、吉村里子氏、齋藤きね氏
◉投書欄
◉編輯だより

完全無缺頭髮用

夏になつて自らも不快、他人をも不快に感せしむるものは毛髮のふけと惡息です、女髮結が屢々病に罹る源は此猛烈な惡息の爲めに神心を煩ふからだと申します
此點に於て第一に御勸め致しますのは千代田香油であります
本品は純粹の椿油を根本とし歐米流行の香料を配劑した佳品です

毛髮を漆黑ならしめ ふけを防ぎ くせを直し

芳香優秀で長時間を保ち香水の代用を爲し自ら神心を爽快ならしめます

特製七十錢　大瓶三十五錢　中瓶二十五錢　小瓶十七錢

試用見本は郵券代用にて御申込次第送附す

東京馬喰町四
山岸三之助
電話浪三七九三
振替口座一九九七八

スワン石鹼

純白で湯水に浮き價安くして品の善いスワン石鹼は至る處の小間物、化粧品、藥舗にあり

婦人世界

七月一日發行 五卷第八號 一冊拾五錢 郵稅一錢五厘 半年分郵稅共一圓五錢 一年分郵稅共二圓五錢

▼婦人の芝居見物の利害……村井弦齋

▼子供の避暑に就て注意すべき事あり……醫學博士 加藤照麿

▼伊豆大島に渡りて婦人の不思議な風俗を見た記

▼英國にて五人の子供を育てた私の實驗……園田鉒子

▼良人の銅像除幕式に列して泣く……故杉野兵曹長夫人 杉野りう子

◎家庭に於ける軍神廣瀨中佐……故中佐令孃 廣瀨春江子

◎私が一年間に體量三貫目增した實驗……村井弦齋

◎病床で料理を拵へた尾崎紅葉山人……未亡人 尾崎きく子

▼糠汁にて脚氣病全快せし多くの實例……弦齋夫人

▼上海暴風雨に遇ひ九死に一生を得た實驗……中村千代子

▼女寫眞師となりし陸軍少佐の未亡人……故陸軍少佐星加喜三氏夫人 星加貞子

▼良人が切腹した當時の追懷談……故武市半平太氏夫人 武市とみ子

▼趣味多き名流令孃のお稽古しらべ……

◎古今文藝談
◎通俗學藝欄
◎我家の實驗
◎歷史講談（堀部妙海尼）
◎家庭笑話
◎地方欄
◎茶ばなし
◎女中紹介欄
◎婦人世界
◎判じ繪
◎讀者文藝
◎文藝問答（短文、和歌、俳句）
◎齒科問答
◎育兒問答

東京京橋南紺屋町 實業之日本社 （郵便振替口座三二六番） 全國賣捌書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人界に於ける新智識の涵養を努むは本講義也

緑蔭本講義を繙くは理想也

女子大學講義

新に第三回の學期を開始す

編輯所（東京市小石川區目白臺 電話番町七百七十番）日本女子大學校櫻楓會

○本講義は毎號雲上貴き邊に奉獻すべき光榮を有せり
○入會は至極簡便にして學科は女子大學家政科に據る
○本講義は文章平易趣味豐富假名付なれば何人も讀得
○講師は悉く女子教育に經驗ある博士大家を集めたり
○通信教育は簡便なる勉學方法にて家庭的婦人に適す
○全學期を修めば十八冊の百科全書を備付せるに等し
○本講義は堅き基礎の上に立ちたれば世の信用多大也
○本月限り入會金を免除す會費は一ケ月五十錢なり
○會則は『往復ハガキ』にて申込次第無代にて進呈すべし
○會員には毎月好評ある婦人雑誌『家庭』を無代進呈す

發行兼申込所（東京市小石川區久堅町百八 電話番町九六二番）精美堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

公教宣教師ラゲ博士改譯

新約聖書

（出版七月中）

賣價

	四六判形	菊判半裁形
背クロース製	金九拾錢	金八十錢
總クロース製	金壹圓	金九拾錢
背皮製	金壹圓拾五錢	金壹圓
總皮製	金壹圓七拾錢	金壹圓五拾錢
折皮製	金貳圓	金壹圓七拾錢

我が邦譯聖書は三十餘年前の飜譯にして謇澁含糊往々莊重典雅を缺き屢々理解し易からず、佛國ラーゲ先生夙に佛和字典を著はし其譯語の的確なると其用意の周匝なるとを以て有らゆる語學界の嘆賞を博しヘボンと聯んで語學者の双璧と稱せられしが、今や數年精勵刻苦したる聖書邦譯の業を完成し近日公刊せんとす、**ラーゲ氏の語學上天稟の才あるに加へて其精力拔群なる十年一日の如く精勵して飽くなきは眞に絶倫也、**飜譯の業は唯語學力にのみ求むべからず唯能文にのみ頼むべからず、**此堅忍の精力あつて然る後大成すべき也、**ラーゲ氏の新譯聖書出づ、我が基督教文學は頓に重きを加ふと云つべき也。

本書の特色

（一）従來の、章と節とに分てる不完全なる區分法を守りながら、更に意義上より區分して、之を篇、項、欵に細別し、各條毎に表題を加へ、尚小節目毎に行を新にして欄外に其大要を摘記したる事。（二）欄外及び側註に於て間本文に解釋を施し、或は別譯をも示し、尚ギリシア語の原文とラテン語の譯文と相異なる點を擧示し、時間、貨幣、度量衡等をも日本現時のものに換算したる事。（三）各書の初に叙言を附し、其著者、目的、題目、場所時代等に就きて簡明なる解説を下したる事。（四）本文の中に頻出する詞にして説明を要するものは、附錄「辭解」に於て之が解釋を施したる事。（五）卷首に詳細なる總目錄を附し、尚附錄に「四福音書和合表」を載せたる事。

發行所
東京市日本橋區通三丁目　丸善株式會社
大阪市心齋橋筋博勞町四丁目　丸善株式會社大阪支店
京都市三條通り麩屋町西へ入る　丸善株式會社京都支店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

趣味と實益に富む●健實なる家庭の友

婦女界

七月號出來　一册十五錢

▲十七才にして仁尾家に稼し貧苦と戰つた實驗……仁尾夫人

▲グラットストン夫人の良人慰安法……秋山雅之助

▲新聞に誤報を傳へられた井口女史二十餘年の獨身生活

▼女とは如何なる者か　下田次郎

▼避暑は如何にすべきか

▲心理學者の觀たる避暑地　高島平三郎

▲文學者の觀たる避暑地　巖谷小波

▲醫學者の觀たる避暑地　狩野謙吉

▲美術家の觀たる避暑地　久保田米齋

▲旅行家の觀たる避暑地　目賀田夫人

▼婦人の内職としての造花……天野

▼食料保存と氷の選擇……高橋

▼夏の服裝に就いて……米齋

▼七夕祭の御料理……龜井

▼七月の園藝法……雅子

▼七夕の文藝……孤帆

▼話の種……記者

▼歸省……下田

▲良人武市半平太が勤王の爲めに切腹した前後の感……未亡人とみ子

▲如何なる男を良人に選ぶべきか

▼貴婦人の交際振

▲良人の放蕩を矯す簡易な催眠術

▲精神にも種痘を施すべし　宮田修

▼チブス患者看護法

▼母親の不注意　瀨川博士

▲貧民より神の如くに思はれつゝある井口工學博士夫人

▼講談……記者

▼談話會……讀者

▼應急手當法……政枝

▼一週間の献立……龜井

▼料理の食事作法……村田

▼驚くべき蟻の世界……淸子

▼脚氣に關する新發見……山本

▼衞生問答、和歌、俳句等募集

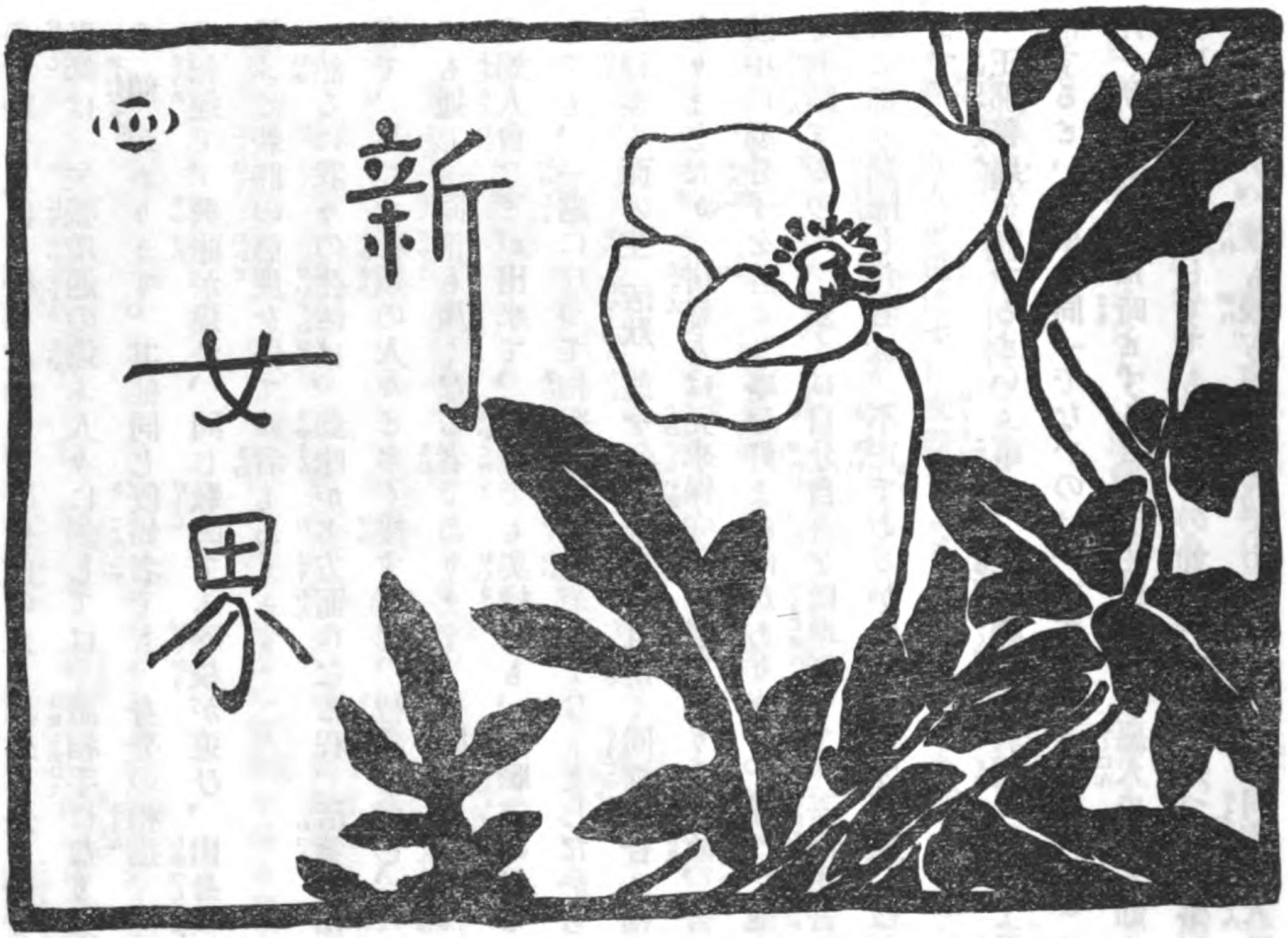
▲高等教育を要する女子は不幸なる者である……澤柳政太郎

▲私の苦々しく思ふ今日の女學生風……金子男爵

東京市神田區表神保町
振替口座東京一三五

同文館

一册金十五錢　六册九十錢
十二册一圓七十五錢



第貳巻第七號

廣く人に接せよ

安井哲

此頃某新聞に「男教師の女教師に對する批評」が載せてあるのを讀みましたが、其中に「交際が狹いので智識が偏狹である」といふ事がありました。女子は其性質上男子より狹い世界に住むのは、止を得ぬ事でありますから、見聞も狹し、交際の範圍も亦小さく限られて居るのは、事實であります。從つて智識も偏狹であり、廣く人情にも通せず、興味も亦多方面でないのは自然の結果で、之れは獨女子のみならず、男子でも亦同樣な境遇に居る人は、同一の狀態に陷る者であります。

私は近來方面の違ふ人々に接する機會が多くありますので種々の人々に就いて實驗して見ますと、家庭にのみ引籠つて少しも他人に接せぬ人々、學校にのみ引籠つて少しも外部の人々と交らぬ人、同一主義の人々や同一の職業の人々以外には、餘り多く接する事を好まぬ人々は、どうしても僻見があり、度量の小さい所があり、自己中心の傾があり、人情を充分に解せぬ缺點がある樣に見えます。例へば家庭生活專門で少しも他の職業の人に接せぬ奧樣は、他人に對して直に會話

の材料を見出し得ぬが如く、學校内の人々以外に多く接せぬ教師は、矢張境遇の違ふ人々に對しては、話相手になり兼ねる傾があります。其他同じ既婚者でも、身分の相違、位置の相違で、興味が違ひ、同じ教師でも學校が違ひ、出身校が違ふと親睦の態度を保てぬ者もあります。

然るに我々の生活は、興味が多方面になる程、活氣の出る者で、異つた種類の人々と多く接する程、智識も增し、人情にも通じ、同情も廣くなる者であります。吾國には近來種々の婦人會などが出來て、令孃でも奥樣でも、又職業の異る人々でも、一處になつて相樂しむ機會が多くなりましたから、餘程多方面の生活狀態を知り合ひ、且博く同情し合ふ樣になりましたが、併婦人は元來保守的の者であります故、吾團體中に異分子を容るゝ事を好まぬ傾があります。從つて他人を判斷するのに、多くは自分自身を標準にして、吾思想吾風習と餘り懸隔した者は、不正であるかの如く判ずる樣になります。

正邪善惡を判ずるといふ事と、主義職業の異同に對して愛憎するといふ事と同一でないのは、申すまでも御座いません。併吾等婦人は時とすると、異主義の人は惡人である如く異職業の人は賤しくでもあるかの如く、力めて近づかぬ事がありますが、誰も彼も同一婦人である以上、而も同國婦人で

ある以上、共通の興味は數へきれぬ程ある筈で、殊に人情の點に於ては、格別に異つた處はない筈であります。子供を教育する任務を有つて居る、母親や教師は、成るべく多方面の人々に接して、異なる意見を聞き、新しい經驗を得、多數の人々と親和するのは、己を修養する一の方法で、知的方面からも、情的方面からも、又道德的方面からも、誠に望ましい結果を得るのであります。

其故我々は、時々他人の風采や主義や意見等が、自分の心に滿足を與へぬ爲めに、其人を厭ふ樣な事はあるまいかと反省せねばありません。若自分が好まぬ人に對して、誰かゞ其長所を見出し、其人と愉快に交るならば、其第三者は自分より遙に度量も廣く、同情も厚い人であります。假令社會の下層に在る人々でも、美くしい點を有つて居る者で、心を打開いて語つて見ると、誠に面白い者であります。況して相當の教育ある人々には、取るべき點、學ぶべき事が澤山あつて、殊に職業や經驗や境遇が違ふ程、一層學ぶべき事が多くある者であります。それを自求めて偏狹な世界に住み、心を廣く開く代りに、堅く閉ぢて、他人の意見も經驗をも容るゝことがなく、尊大自負の態度を保ちます時には、獨智識の進步せぬのみか、人格の修養も出來る筈がありません。婦人が時として其本性に反し、冷淡傲慢の態度を示す事のあるのは即

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

之れが爲めで、自分と境遇を異にする他人に接する事を好まぬ人は、溫情の養はれる機會がありませんから、終には他人に對して無慈悲となり、壓制となり、傲慢となるのであります。

勿論「廣く他人に接せよ」といひますと語弊があつて、誰でも彼でも人を選ばずに交際せよといふのであるか、又家を外にして、交際社會に浮かれ歩けといふのであるかと、批難せらるゝかも知れませんが、無論かゝる極端な事を申すのではありません。己に接する種々の人々に對して、深き同情と、大なる興味とを以て交られよと申すのであります。吾々は如何に交る範圍が狹くても、家族以外種々の人物に接する機會があります。此場合に如何なる心情を以て、是等の人々に對するかゞ問題なのであります。

私は吾國の婦人社會が、少しも氣兼のない、打明けた、同情に充てる、心から樂しい社會でありたいと熱望して居ますが、或一部の團體を除くの外は、悲しい哉、同職業の人々、同趣味の人々までが、充分に打解け合はぬ實例を往々發見するのであります。

暑中休暇も近づきましたから、富める人々や疲れた人々、病める人々や學生方などは、旅行や、轉地や、歸省の準備をせられつゝある事であらうと想像致します。そこで此機會こそ實に多方面の新智識を得らるゝ最好都合の時で、獨知的方面のみでなく、他地方の人々に接して、異つた人情風俗を實驗し、又は久し振りで、兩親や同胞と相語つて、平和な暖い空氣に觸れ、溫情を養ふ事は、誠に喜ぶべき事であります。然るに若かゝる好機を有しながら、都人を氣取つて、田舍人は話相手にならぬなどと威張つたり、故鄕の昔友達を、都の學友と比較して、輕蔑する樣では、何事も學ぶ事なしに終りませう。同情を以て人に對すれば、一面識なかつた人でも、直に心を開いて近づきますから、自然に多くの人々に接する機會が出來、從つて正當に人物を識別する事が出來る樣になるのであります。

要するに吾々婦人は、出來得るだけ廣い範圍に於て、多くの人々に接する事を力め、多大の興味と同情とを以て、是等の人々と幸福を分ち、經驗を交換しやうと心懸ける事が必要であります。若性格、主義、境遇等が、自分に似ない人々を惡む樣な傾がありましたならば、心密に恥づべきで、此世界には自分より勝れた人々が無數にある事を記憶し、自分の經驗せぬ事を賤しめずに、心を空しくして他人から學び、知らざる事は互に知らすとし、誤りは互に誤りとして、互に補助發展するやうに努めるのは、獨自分自身の幸福のみではありません。

講壇

不朽の人格

海老名彈正

▼偉人の苦しみ

人格を他の言葉で云ふと「我」の最も善く働いた姿である。故に人格と云ふものは容易に作らるゝものでない。誠に骨を折つて、苦戰奮闘する事は申す迄もない。宗教も下の方になると奮闘もなく、苦心もなく、濡手で粟を掴む樣な事を有り難いと云ふ。母の懷に抱かれた如く、何もかも忘れて、汚れたら、汚れた儘で慈悲を願ふ。其處が微妙だと云ふ。けれども恁ふ云ふ信仰の起る迄の苦しみは、中々容易の事でない。釋迦は東洋に稀なる天才である。然も其天才を以てして、王子の位を辭し、快樂を去つて、世捨人となつた。此處にどれ程の苦痛があつたか。年を云へば二十左右、印度は早熟の地であれば、實に若盛である。それを、夏猶寒き雪山に入つて修行に修行を重ね、或時は殆んど餓死せんとした。かくして彼が佛となる迄の苦心は想ふて見ても、容易の事でない。又基督が「凡て疲れたる者、重きを負へる者は我に來れ。我軛は安く、我荷は輕し」と仰せらるゝ人格を殘された御足の跡を考へると、涙の出る程苦勞なされた事が分る。ヘブライ書の記者が誌して「從ふ事に依つて全ふせられたり」と云ふた如く、其限りなき從順は遂に十字架の死をさへ甞め給ふたのである。基督は天才中の天才である。努めず、學ばずして得たと云はれ給ふが、決して然うではない。三十年の勞苦、四十日、四十夜の試、擧げ來れば一として努めず、學ばずして出來たものはない。孔子とても然うである。十室の邑必ず忠信丘が如きものあり、丘の學を好むに如かず。孔子は自ら十人並より偉いと見られた。然しさ程珍しい事はない、十軒もある村にはあるべき人物である。けれども自分の樣に學を好む者がないと嘆せられた。即ち孔子自身が誇りとしたのは其才にあらずして努力である。所謂憤を發し、食を忘れ、又三月肉の味を知らず、と云ふ程の熱心、其處が偉いのだ、又、

我少うして賤し故に鄙事に多能なりと云ふ所を以て見ると、一種の苦學生である。かくして孔子は聖の域に達した。

▼一個人の價値

彼等の人格は輝いて居る。而かも其人格は價を拂つて買ひ得たるものである。天才が凡ての勢力を集注して、贏ち得た結果である。故に宇宙にかばかり貴いものはない。一個人は一個人として、高き價値がある。孔子は孔子、釋迦は釋迦、基督は基督と各特殊の人格が現はれて居て、之を取り換へ様としても取り換へる事が出來ぬ。釋迦には釋迦相應、基督には基督相應の人格がある。さて其人格は永久に存するであらうか。それとも煙の如く霞の如く、消ねて無くなるものであらうか。近世の科學的研究は之に一大光明を與ふる。宇宙萬有の進化發展する上に於て、善いものは殘り、惡いものは廢たる。現在目の前にある惡い物が何時迄も續くものなら、進化のある筈はない。殊に人格は進化の中で最も價値あるものである。故に價値の判斷によればそれがぼつと、消えて了ふと云ふ事は怎うしても考へられぬ。或人は殘るには殘るがそれは社會を通して殘るので、個人ではない。釋迦が生きてるのは佛教があるからだと云ふ。けれどもそれは未だ到らぬ、個人はどこ迄も個人として生きねばならない。社會の道具として生きるのでなくて、天上天下唯我獨尊と生くべきである昔の考の如く臣は君の爲、僕は主の爲と云ふのではない。王侯も犯ふ可らず、社會も傷つく可らざるものが個人の價値である。我々は固より一身を帝國の爲に捧げて居る。けれども若し我が人格を傷けんとするものあらば、そが五十萬の同胞であつても、我は之に對して反抗する價値を有する。一個人は一個人として朽つべからざる價値を有する。この價値は近頃段々分つて來て、研究すればする丈確になりつゝある。

▼花の色

小供の時には飲んだり、食つたりする事が、何よりの樂である。婦人であれば、天然の美の上に、裝ひをする。一時は身體の美の爲にときめいて、賞めそやされる。けれども年六十にもなると、否、六十にはならなくとも、四十にもなると色がうつらう。嗚呼あの人も最早、見る影もない。とんと老いぼれた。昔は奇麗な人で、艶やかな黑髮を羨まれたが、今はそれも霜と變つた。あの寶に櫻色の頬も色あせて土の如くなつた。怎うして、恁う迄變るものかと、人の上を嘆き、はては我が身を顧みて、人知れず吐息を漏す。けれども變る可きものをあてにしたのが間違である。咲く花は散り。紅の色はあせる。無常の沙上に建てた家の久しかる可き筈もない。先には王侯貴人のめづる所となつたものが、色あせた今、貴ばれずなるのはそれである。虚榮心で奔走して、榮華の夢を

見るものも又如斯。黄金や、功名や、決して悪いものではない。けれどもそれのみを見て居ると、土臺がぐらついて來る金の力で行けば世の中は怎うでもなるものだ。宿屋に泊つても、滊車に乗つても、舟に乗つても、それだと。金さへあれば大西洋を越ゆるにも、一等の上に特別がある。一等は二百六十圓の所を千圓も出すと室は忽ち宮殿と化する。何もかも金だと羨む。けれども金光の上に立てる人は金が無くなると、見る影もない。權威も又然うだ。或人は韓國などへ行つて、官吏となつて隨分幅を利かせて居る。けれども今度の様に統監でも變ると、忽ちのうちに、とつと、引くり返へらないとも限らない。かゝる無常の上に建てらるゝ人格は亦忽焉として朽ち癈つる。然う云ふ人格は生き乍ら死んで居るも同様である。であるから况んや、死んだ後生きる筈はない。

▼信仰は奴隷になる事ではない

之に引き換へて、靈の上に人格を置くものは永久に生きる物質の世界を迷とは云はれぬ。けれども物質は變るものである。勢力は保存されても、形の保存はない。身體を一番確の様に思ふて居る人もあるが、身體は明日怎うなるか分らぬものである。靈と云ふと、幽靈などを思ひ合せて、不確の様に考へる。けれども能く考へて見ると、主人公は靈即我で、身體は其影に過ぎない。我は内にあり、身は外にある。彼は命

ずるもので、此は從ふものである。靈は凡ての本になる。基督は我は生命を取るの權威があり、又之を棄つるの權威がある。餘義なくされたのではない。餘義なくさるゝなら、衣を賣つて、劍を買ふがよい。餘義なくさるゝなら、寧ろ自から憤死す可きである。併し、基督は我から進んで、人類の爲に一身を捧げられた。仕方なしにやるなら、何の力もない。けれども天地の主なる神を信じて、進んで成す時に其處に無限の力が出て來る。父よと叫んで行く、子たる者の心事は奴隷が鞭たれて、嫌や〳〵乍ら働くのとは、まるで、表裏である基督信者にして、奴隷たる者は多い。僕から拔け切らぬ者は多い。けれども基督は我々を奴隷になし給はない。父に非ずんば子の心は分らない。子に非ずんば、父の心は分らない。子を知り、父を知る親しみが基督教である。子の發展こそ望め、誰か其子を奴隷とする父がある。即ち神を信ずるのは大なる我を生ずる爲である。

▼神の友

私は二十年以來、神は父なり、と云ふ事を最も強く主張した。けれどもこの意識に達するものは尠い。幼子と云ふ意識に入つた人はある。けれども、我が自由を以て、大御心を奉ずると云ふ大人の意識に入つたものは尠い。親が七つ、八つの子を愛する所は實に美しい。けれども、それだけでは未だ

足らない。も少し深い所がある。何か、親子が朋友となる事である。親は子の爲、子は親の爲に友人となつて、胸襟を開いて談ずることである。親が子に依る如く、子も親に依り。親が獨立する如く、子も獨立して、睦ぶことである。天の父と我々との關係は此處迄進んで來ねばならぬ。彼のヨハネ傳の如きは此邊の消息を表はして居る。舊約にアブラ公を神の友と云ふたのも此邊の消息を傳へたものである。我々は神と異なつたものではなくて、神たるの面影を持つて居るものがある。天地は古ぶるとも、神に變りはない。其神を友として神の中に生き、神の中に一個の獨立的生活をして行く。如斯人格が怎うして社會に沒入して了ふのであらうか。我々はイエス、キリストと共に世界を得とも何を以て之に易んや、と云はざるを得ない。個人の存在は斷じて社會の中にちりはつるものではない。

怎う云ふと、然う云ふ人格は到底得られまいと失望する方もあるが其處は信仰で行かなくてはならぬ。目の前の事ばかり見ては分らない。信じて見識を開いて、行かなければならぬ聖書を見ると、エスの槽に呱々の聲を擧げ給ふ「倐ち衆の天軍あらはれ、天使と共に神を讃美て曰けるは、天上ところには榮光神にあれ、地には平安、人には恩澤あれ」と歌ふたとあるが、これは美はしく理想した詩である。名もなき一大工の子がエルサレム詣での途すがら、一夜の夢さへ結び兼ぬる賤が伏屋に呱々の聲を擧げた時、誰か、世界人類の救主が此子であると思ひ當らう。後から見てこそうなづかるゝ節も見出されたであらうが、恐く其折には顧みる人も無つたに違ひない。我々を以て直に基督に比する事は恐れ多いが、而かも神たるものがある以上、淸き心に高きを仰ぐ時、父樣、母樣と云ふ聲が出てる。

▼墓前の祈

某醫學博士がクリスチャンとなりしとき、初め怎うしても祈りが出來ない。基督の道は信じた。けれども神の子とはなれない。所が、或時父母の墓前に詣でて、その身上に積る恩愛と光榮とに想ひ到り、跪いて父上、母上と發言された、其刹那、覺えず天を仰いで、父よと叫ぶ感が閃いたといふ。而して今迄祈る事の出來なかつた彼は始めて祈りの實驗をせられたとのこせである。其美しい子たる心事に價値はないか。此心を基として全きに至る人格に價値はないか。神を求めて得ざる方があるならば、祈り給へ。淸き生涯を送らんとして祈る其切なる願には無限が宿る。而して其處に得たる生命を本として、人格を築き給へ。さすれば其處には永久に根ざせる人格が現はれる。基督にならうとして得られないと云ふて失望してはならない。基督となる迄は信仰と、愛と、望を以て向上せなければならぬ。不朽の人格は心靈に根ざす勞力の効果なり。故にその價値は世界よりも大なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

涼しき慈善

▽新鮮空氣團の話▽

倉橋惣三

一

こゝはペンシルヴアニヤの片山里、シエルマンといふ村の小さい教會である。若き牧師ウイラード●バーソンは朝の說敎の中で言つた。我等の六月の野に繁げる草苺は、實るがまゝに牛や馬の蹈むにまかせてある。甘い雫を野路に滴らす木苺の實は、摘む人もなくすてゝある。此の晴れやかな空、涼い風、淸い流れ。憩ふに心地よい木陰、梢に面白い小鳥の聲しかも吾等は慣れては此の淸樂を心づかずにさへ居る。併し諸君、諸君は都會の貧民街を過ぎたことがあるか。此の暑い夏の午後を、風通しの惡い細小路の、焦げる如き錬瓦路の上で、汗と塵埃との中に倦み疲れて居る子供等を見たことがあるか。彼等は肉體に於て渴いて居るのみではない。精神に於て渴いて居るのみではない。靈に於ても亦渴いて居る。彼等には木陰一つないのである。駒鳥の聲ひとつ聞き得ないのである。野茨の香ひとつ臭がれないのである。彼等の有するものは、貧困と窮乏と炎熱と苦惱と而して死のみである。——若き牧師は自分の語らんとする處が、熱心なる聽衆に解せられ得ることを見た。可憐なる貧兒等に對する自分の同情が、眞摯なる村人に通ずるのを見た。そこで自分が嘗て親しくニユーヨークの細民窟を觀察して以來、常に靜かなる野路を步みては獨りで考へて居た計畫を以て、會衆に詢つた。諸君、我等この自然の淸樂を擅にし得るものは、此の幸福を以て彼等に頒ち度いと思はるゝではないか。而して、野と森と小川とを彼等の許に運ぶことが出來ないとならば、彼等を我等の許に連れて來ればよいではないか。諸君、之れは我々に出來ぬことではない。又今まで一度も行はれなかつたといふ理由を以て、新らしく我々が實行して惡いことではない。——說敎者は其の熱心なる說敎をこゝで終つた。そして此の日の主

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

題であつた聖書の句を再び繰りかへした。實に此の日の說教の主題は「我まことに爾曹に告げん、既に爾曹わが此の兄弟の最も微さき者の一人に行へるは、卽ち我れに行ひしなり」といふのであつたのである。

二

終りの讃美歌を唱つた。會衆の多數は牧師の說教に深き興味を感じつゝ語りつゝ歸つて行つた。併し男女數人の一團は其のまゝ敎會に殘つて牧師と共に新計畫を議した。議したといふよりも寧ろたゞ語つた。樸素卒直なる此村人にとつては善事は議するまでもない、たゞ直に行ふだけのことであつたのである。午食の刻限になつてもまだ散じやうとしない。而して其の結果、越ゑて一日、牧師は獨りでニューヨークへ行つて、貧しい子供等に此の森からの招待を告げることにした。彼等は二週の間シェルマンの村賓となつて、戸別に溫く優しく迎へられて、彼等の住家の細小路以外、世界は如何に美しいかといふことを親しく見せて貰ひ味はせて貰ふ筈なのである。

牧師は色々撰擇の上で、最も貧しく、最も此の招待の撰にあたるべき子供等九人を伴ふて歸村した。村人は之れを一人々々家へ迎へ入れて饗した。やさしい親切と、充分な日光と清潔な空氣と、豐に新らしい食物とを以て饗した。疲れた、汚れた、陰氣な子供等は、日に々々快活な幸福な子供になつた。而して二週間の後に、九個の血色のよい笑ひ顏が、莞爾として銘々の家へ歸り行いた時に珍らしかりし、樂しかりし澤山の土產話は、元氣と喜ひとに充ちた聲でいひふらされた。

此の後、シェルマンの邑には夏毎に、都會の貧兒の迎へられぬ年はなかつた。やがて年々に子供の數も加はつた。諸方からの寄附金も多く送られた。片手に聖書、片手に理髮鋏とシャボンとを持つて戸毎に馳け巡る委員方の忙しさも次第に增した。終には鐵道會社が此の子供等の爲に特別列車をさへ出す樣になつた。而して「ツリビユウン」新鮮空氣團の名で益々盛になり、世界にまで名高く

なつた大慈善事業の起りは、田舍の教會の若い牧師のやさしい思ひつきと、之れに感動した敦厚な村人の決議とによつて斯くの如く何の業々しいこともなく、事々しいこともなく、簡單に平易に、極めて手輕に始められたのであつた。

三

大なる慈善事業の効果に就ては、更めて說くまでのこともない。併し、それは、時期を待ち順序を經ねば得らるべきものではない。又偉いなる人の力と資力を以て始めて出來ることである。我國に大いなる新鮮空氣團の起さるゝことは希望ではあるが容易のことではない。併し、ウイラード●パーソンには誰れでもなれる。シエルマンの村人となることも大した難いことではない。電氣仕掛の大旋風器は誰れにでも直ぐに出來るといふ譯にはゆかない。併し一面の扇子からも涼しい風は送ることが出來る。貧兒に隊を組ませ列をつくらせて旗を立てゝ名勝の地へ慈善旅行をさせることは、其の人があつてして呉れる。併し海の邊り、山の麓、清潔な田園の特志の方に向つて、出來ることならばお勸めもし度い。又お願ひもし度いのは小さい涼しい慈善である。即ちシエルマンの村人の始めの計畫の樣に、一軒一人を一二週間でも預るといふことにすれば、君が家の前に蔭をつくる名無しの森、君が瀬戸に流るゝ名無しの小川、仕立て直しの古浴衣一枚、食膳に

餘る自園の蔬菜とを以てして、小さいけれども意味の多い慈善をすることが出來るのである。自然がふんだんに供へて置いて呉れる日光と綠野と新鮮の空氣との分配にお手傳ひをすることが出來るのである。之れこそ誠に意味深い慈善といつてよかろうではあるまいか。而して其の一夏の眞の涼味を領し得るものは、其子供でもあるが又諸君でもある。無理にでも大袈裟のことをしなければ、慈善が出來ぬと思へばつい汗も出る。併し、其の人の心に湧く愛の淸水の只一しづくに、小さい涼しい慈善ならば誰れにでも出來ると思ふのである。ニユーヨークとシエルマンの邑とは亞米利加ばかりのことではない。

▽雜誌會△

隔週に雜誌會とて外國から新着の雜誌を讀む會があります、ある晩其會に出掛るとき小い姪に「これから雜誌カイにいつてくる」と云ひ殘して出ました、歸つて見ると睡むそうな眼をこすりながら「叔父さん、どんな雜誌を買つて來て下すつたの」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ゆきあたりばつたり集

在英　内ケ崎作三郎

十六、英獨對抗と天使の微笑

今年一月末、北英のさる都市の倫理協會にて日本に關する講演をした。翌朝再び南上の汽車に乘つた。僕の飛び込んだ室には既に五人の乘客がゐる。僕の兩側には職工らしい青年が二人、眞向には、色がクッキリと白く、頰に紅色が潮して眞珠の樣な眼を光らしてる十一二歳の美少年がゐる。何處かの學校の徽章のついてある黑の鳥打の制帽を被つてゐる。僕はローマ法王グレゴリーが一人の美はしき少年奴隷をみて、汝は何處より來れるやと問ひしに奴隷はアンゲルランド（英國）より來れりと答へたるに、汝のごとき美はしき少年の住む處はアンゼルランド、即ち天使の國であらうというて、宣教師を北歐の離れ島に派遣したといふ話を思ひ出さゞるを得ない。これは千數百年前の昔噺であるが、美はしき少年の傳統は今猶此國に存してゐる。この少年は本當に天使の顏とでもいふべきである。僕はこの少年と血を分てる兩親や、兄弟や、姉妹やらを聯想せざるをえなかつた。その少年の右隣が骨格逞ましい英人、慥か商人か何かであらう。凜とした容貌に大きな眼と、鼻と口とに、異彩を放つてゐる。見るからに一癖ありそうな男である。少年の左隣には獨逸人らしい中年の紳士がゐる。これまで少年を中央にして兩側の間に談話があつたらしいが、停車したのと、僕が這入り込んだので、それが中止されたのであらう。汽車が動き出すと、英獨兩人の間に談話が再び起つて、いつしか英獨對抗問題となつた。英は獨に菓子などをすゝめた。英はいふ、英國は世界第一の國である。南阿戰爭の時は數十萬の兵士を、數千里外の地に、數年間駐在しゐたのである。獨逸にはこんな眞似は出來ぬものであらう。獨の答へが面白い。曰く我國はまさかの時に南阿まで出兵する必要はない。英國は獨逸から至つて近いから

軍費も要せぬといふ。何でもハンブルクの水先案内とかをやつてゐる男であるから、この挨拶もやゝ紳士道に適はぬが、仕方はない。そのうち談は進んで徴兵問題に入る。獨逸はいふ、國民皆兵主義に限る、軍隊敎育は國民敎育の場所である規律と、克己と、勵精と、獻身とを敎ゆる所である。僕も軍隊敎育を受けたものだ。英の陸軍制度は駄目だといふ。英は應へて曰く、否々、我々は自主の國民である。政府の命令がなくも、こは大事件が生ずるとなると、國民が自ら進んで身命を獻ける、見たまへ南阿戰爭を。多くの貴族の青年が率先して從軍を志願して、屍をトランスヴアールの山野に曝したではないか。英國の樣に個人が發達してゐる處には厭制的の皆兵主義は不必要だと氣焔を吐く。すると水先案内先生僕に話しを轉じて、承はれば日本も國民皆兵主義を採用されたそうだが、高見いかゞと聞く。かくして此度は日英獨の會話となる。支那の問題が起る。印度や埃及の問題となる。とにかく歐州人は誰でも政治や外交の智識を一通り心得てゐるから（日本では宗敎家にも、敎育家にも、文學者にも、實業家にもこの思想が至つて幼稚である。それで第一等國呼ばりは樂天も甚しい。）その所論中々面白い。獨逸はいふ、萬一、英獨の對抗が實現する曙には印度が謀反するだろう。英國は答へる。否々日英同盟は何のためだ。かゝる時は英は萬事東洋のことを日本に依頼するさ。日、英、米三國が握手すれば世界は太平無事ぢやと高を括る。そして蜜柑をむいてこれを獨逸にすゝめると、水先案内先生稍怒りてこれを受けない。英は君立腹したのかなどとなだむれども、少々調子外れになつて、獨逸はとう／＼蜜柑を辭退した。すると英商人は僕に向つて、日英同盟だから、君は受けるだらうと强える。辭するわけにもゆかず、その好意を謝した。このやゝ激しい議論の最中に向側の天の使はポッケットからビスケットを摘み出して、微笑しながら嚙つてゐた。僕は平和の使を見るがごとき興味を以てこの少年を眺めた。荒れに荒れた夜の終りに來る靜かなる曙の色はかくもあらんか。寒い長い冬に續いて訪るゝ春の光はかくもあらんか。一行とはオックスフォードに着くと握手して別れた。獨逸人にはわざ／＼獨逸語を用ゐてウイーダーゼーエンといつて置いた。少年も乘り換へのために下車した。プラットフオームにて、おさらばを言ひかはした。さても、心に殘るは英獨對抗の成行。思ひに浮ぶは天使のやさしき面影。

十七、日本海の夕波と北海の朝汐

旅といへば誰でも一種の感想を起こす習ひであるが、殊に海外にはじめて出立たんとする時の思ひは特別のものである忘れもせぬ一昨年九月四日の午後五時であつた。僕が乘り組

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んだる露西亞義勇艦隊のリエーモン號は船荷を積み終り、大きな鈴を鳴すやら、汽笛を鳴らしなどして敦賀港を出帆した午後二時頃までは雨と風とがあつて少々波が立つたが、夕暮に近くなつては灣の水なぎ渡りて油を流せるがごとし。神戸より態々見送つてくれた村松吉太郎君は午前中に再び歸られたから、波止場にも何處にも見送人といふものはない。宿屋の小僧が二三人佇んでゐる丈だ。名殘り惜しい感が少ない丈、却つて仕合はせであつたのかもしれぬ。船が靜に動き出した僕は甲板に立ちて、母國の山と岸と次第に遠かりゆくを眺めた。夕日は雲にかくれて、その麗しき光を波に落さねども、船尾に續く波の裂目の、碧玉の色とやいふべき、瑠璃色とやいふべき、そのいみじき色合に幾度か見とれて欄に椅りかゝりたることであつた。かゝること一時間餘、暮の色は次第に空と海とに被ひひろがりて、越の山々も夕靄のうちに隱れそめた。船は既に敦賀灣の外面に出でたれば、波も稍高くなつた。悲しい秋の夕風も肌寒うなつた。甲板の人々皆船房に降りて、殘りたるは吾たゞ一人、望みと祈りに滿てる胸を籐椅子にもたせて、思ひに沈みたる間に、波の船側を打つ音や、機關室の響きなどにひかされて、子守唄でも聞いた積りであつたが、トロリとまどろんだ、半時間程して眼を開けば四圍は全く眞暗、たゞ波の尾が所々に白く見ゆる丈である。立ちあがると、よろ／＼と搖れる。階段の欄干にすがりて辛くも船房に下りたことであつた。

船にゆらるゝこと三十數時間にして浦鹽に着いた。それから汽車の中に囚とせらるゝこと二週間、和蘭のフランシンゲンにて北海の浪の上に浮んで久し振にて潮の香をかいだ。汽車より船に乘り移つたは午後十一時半頃、荒き習ひの北海のその夜はまことに穩かなるを喜んだ。港の電燈が水にゆれる燈明臺の色々の光が電光のごとく海上を走る。頗る壯快である。小寒いから寢臺が十二三這入つてゐる二等室に入つてねた。翌曉になると、前後の人々起きいてゝ仕度に忙はしい。僕も起きて面を洗ひ、それから小さい食堂にゆきて茶を飮んだもう午前六時頃で、薄黑色の室のあはひから、朝のけはひが洩れて來る樣である。クインスボルー港に近くと、ユニオンジャックの海軍旗を揭げたる一隻の小砲艦が勢よく浪を切つて進んでゆく、空は段々白けて灰色となり、港の朝景色が靜かに眼前に横はつた。長い旅路の目的地に達したと思ふと、凱旋者のごとき心強き感じが胸の中に湧かざるを得なかつた

後十日程を經て、東海岸のロウエストフトの棧橋のうへにて、秋の朝の清く澄みたる大氣を十分に吸ひ込んだ。同地は英蘭の最東端に位してゐる。そのまた最東端の棧橋の行詰りに立つたのであるから、日本に一番近い英國の部分に立つた

のであつた。宿に歸りて、この話しをすると、思鄉病を起さなかつたかなど冷かされた。この程蘇國に旅したる時、エデンバラーに程近きポルトベロの濱にて再び北海の面影を眺めた。初春のことゝて、夏にみるべき賑かさも、花やかさを賞することが出來なかつたが、大海の姿に接したる喜びは包むに餘るほどであつた。浪となりたや東と西の遠きへだてもひと走り。

十八、家號、船號、街の名、女の名

日本の婦人の名が花に因みたるが多く、又帝國軍艦の名が名山大河より來れるものが多い。殊に水雷艇に詩的の名が多い。これは日本の誇りであつて、長くかゝる美風を後世に傳ふべきであらう。「敷島艦」とか「大和艦」とか「村雲」「春雨」とかいへば、愛國の情に一種の自然美の聯想を加ふるではないか。「花」とか「梅」とかの名も未だその人をみざるに美はしき姿を眼前に髣髴たらしむるではないか。この事は故小泉八雲先生が詳述されたことがある。しかしかゝる事は英吉利などにも類のない事ではない。婦人の名に菫が珍しくない、薔薇、百合、雛菊なども多い。フロレンスといへば伊太利の花の都を聯想させられる。女聖と稱すべきフロレンス、ナイチンゲールはその都にて生れ落ちたので、兩親がそれを紀念せんとて命名したのだそうな。されば英吉利にてはこの名を

與へられたる婦人はこの十九世紀の偉婦人を筆頭とするのである。その後この女丈夫にあやかりて「フロレンス」といふ婦人が多くなつたといふことである。それから家號に優美なのが多い。「森の家」とか、「美はしの谷」とか、「南の楡」とか、「日向の小家」とかいふのである。それで番地がなくも家號にて郵便も屆くのである。軍艦の名にはドレットノートとか、エドワードとか、ヴイクトリアとかいふ名が多く、日本の類例を見たることが出來ぬが漁船には中々詩的のものが多いそうである。僕の知人で東京の農商務省から派遣されて居る一人の青年がある。漁業の研究のため日夜北海の荒波に浮んでゐる。その人からの書信によると、或漁業會社の船は悉く沙翁の名作の題名とか或は劇中の主人公に因んだる名を有してハムレットもあれば、レア王もある、ジユリアス、シーザーもあれば、オセロもあるとの事である。その友人は昨日はハムレットに乘り込んで、丁抹の皇子と海賊との戰ひを忍べば、今日は「ロメオとジリエット」の甲板に南歐の戀物語りを思ひ出づることもあるとの事である。して又潮風に曝されゐる荒くれ男共も暇ある毎に沙翁集を繙くもあれば、これに就いて議論が生ずることなどもあるらしい。日本には大漁丸などいふあまりに慾張りたる物質的の名が多いではないか。街の名には偉人を聯想するものがある。或都會にはテニソン

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小路とか、ギングスレイ街とか、ブラウニング横丁などいふのがあつたと記臆する。まことに奥床しい名ではないか。ニユーヨルク邊の數字をふりあてた街の名などゝは雲泥の差がある。日本では一口に歐米といへども、歐州と米國との區別は年を追つて明かになつて來る。米國には歐州に發達することの出來なかつた獨特の長所と短所とを現出しつゝある。但し古雅とか、優美とか、史的とかいふ特色を當分新大陸に望むは無理な注文であらう。(四月十二日記)

如何にして暑を消す可きか

元良よね

「オ、寒い〳〵、今年の寒さは近來稀な寒さで」などゝ、毎年〳〵出る不思議な繰言を我も人も言つてゐたのもつい此間の樣ですが、いつの間にか櫻の花も咲て散て春は過ぎ、そろ〳〵「オ、暑い〳〵」といふ季節となりました。今年のお暑さも亦幾十年以來無い嚴しいお暑さかも知れません、といつて暑さを豫防する法もありません。それで如何いふ風にしたら其暑さを比較的易く凌ぐ事が出來るかといふ事を考へて見たいと思ひます。

▼「おゝ暑い」

一體人といふものは氣の持ちやうでどうにでも思はれるものです、何でも無い事でも辛い〳〵と思へば辛く、苦しい〳〵と思へ苦しいものです、それで暑い〳〵とばかり思へば暑くて〳〵殆ど堪へられないかも知れません、げれども夏は暑いもの、暑くあるべきもの、少し位暑くても晴やかな陽氣で心持がよい、とさう思へばさうも思はれます。況して冬は寒くて雪が多く降り、夏は大陽が照りつけて熱ければ、穀物はよく實る、今年も亦豊年であらう、とかう考へれば暑い〳〵の苦情は却て感謝となりませう。

併しながら寒さを感じた時に「オー寒い」といひ、暑さを感じた時に「オー暑い」と口走るのはあながち無理とは申されま

すまい。例へば他人に足を蹈まれますなら我知らず「ア、痛い」といひます。若し憚つて口に出せない場合には面をしかめます。それも出來ない折には身體に力を入れてチット耐へます、これを心理學上反射運動とかいつて、これによつて其苦痛が幾分か輕くなるので此は自然の道理だそうです。それですから「オー寒い」「オー暑い」といふのも自然に出る聲で敢て無理とは申されますまい。一つは口癖卽ち習慣ですから、寒いと思つても暑いと思つてもなるたけ、口に出さないやうに又なるたけさう思はないやうにすれば尙よろしうございませう。

▼轉地の利益

それで夏の盛りを暑く思はないで最も面白く又最も有益に過す方法は言はずとも知れた轉地でございます、盛暑の候を利用して塵埃多き都の地を離れ、海邊なり、山間なりの閑靜な涼しい所に身を置て平生見慣れぬ渺茫した海に接しあるひは鬱蒼した山を眺めますなら、單に暑さを避けるといふに止らずして誠に愉快なものです。若し海に近い百姓家でも借り受け、一家を擧げて數週の間逗留して潮を浴びたり、游泳だり又所謂松靑く砂白き濱邊を家族うち連れて貝など拾ひながら散歩したりするなら如何に樂しい事でせう。或は又綠滴る山路を花折りつゝ逍遙するのも興味の多い事でせう。谷川の流れは恰も涼しい音樂の樣に耳に響きましたしてね、一年中精を出して働いて於て八月一パイ位は萬事を投げうち身も心も全く平生を離れて別生活をするのは非常な有益なことだと思ひます。一年十二ケ月より無いのに其中の一ケ月をつぶすのは惜いといはれる方があるかも知れませんが、體の悪い時や心配事のある時、又非常に勞れた時は仕事をしてもさつぱり仕事は捗取りませんが精神が爽快な時は自づと仕事が出來るものです。それと同理で一ケ月位は歸てからでも容易に取り返す事は出來ます。丁度一週の中の日曜を休めば月曜からは又仕事が新たになつてよく捗が行のと同じことです。併し成る可くは轉地する前によく精を出して仕事をして置く方が尙結構でせう、今一つ轉地の利益は私が申さずとも何方も御存じですが、子供たちが自然の物によつて活た學問をすることです。例へば學校で書物の上で學んだ地理とか歷史とか博物とかの幾分を實物について知ることが出來ることです。

▼炎天に田畑を耕す百性を想へ

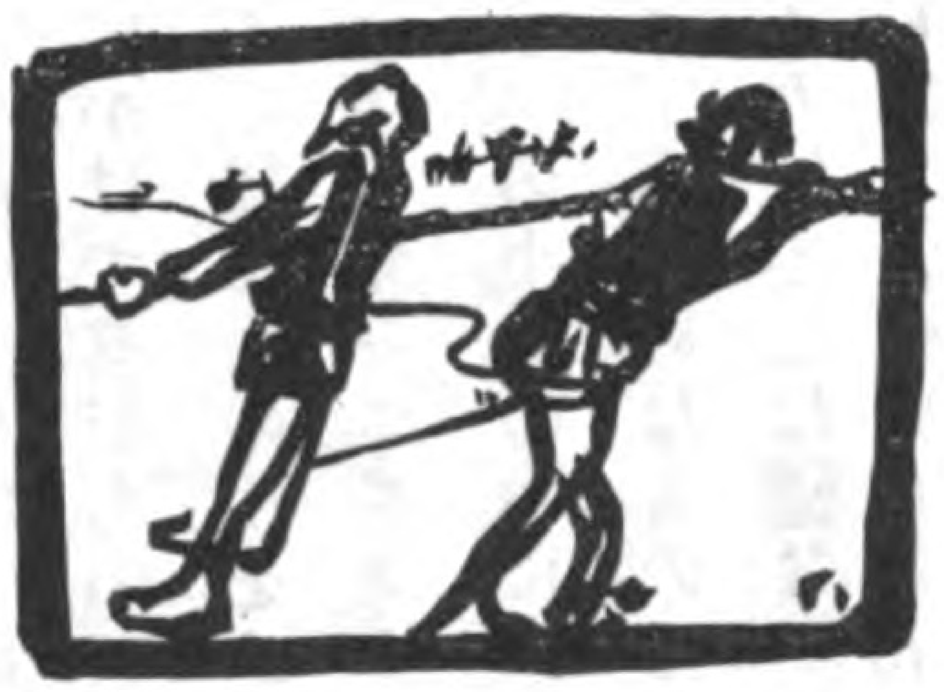
併しながら暑さを避ける此方法は誰にでも出來るといふわけには參りません。殊に一家擧つて轉地とか旅行とかすることは甚だ困難な場合もあります。一家の都合上（留守番其他の都合上）又は經濟上又は其他の事情のため實行の出來ない事もあります。さういふ場合には如何したらよいかといへば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私の思ひますには、相當の仕事をするのです。日のあたらない所で洗濯をするとか朝夕の凉しい時には庭の掃除をするとか草花を養ふとか又日中は裁縫なり讀書なり何なりと爲るのが一番です。何も爲ずに團扇ばかりを相手にぐた／＼してゐますと、暑い／＼の考へばかり盛んに起て來て、尙々凌ぎ苦うございませう。けれども何なりと爲てゐますれば、暑いには違ひありませんが、仕事の方に心が向きますから暑さを忘れて汗を流しながらも仕事は進んでゆきます。そして大陽が夏の長い一日の役を終へて、西の山の端に隱れる時、我も其日の業を止め、お湯でも浴み洗濯した單衣にでも着かへて、此時こそ團扇を手にして緣先へでも出て御覽なさいませ、實に心地ようございます。月の良い晩など一しほです。不風流な私など何を見ても何の音も出ませんが歌でもお詠みになるお方なら尙更興ある事と察せられます。

斯ういふ風に夏の盛りを蜜蜂のやうに終日勵んで働けば、食事も進み夜分もよく眠られて、翌朝は又早く眼が醒め怠くもなく起きられますから、戶外に出て新鮮空氣でも吸ひますと何ともいへないよい心地です。

私共は今夏は何處へも行かないかも知れません、けれども構ひません、炎天に田畑を耕してゐる百姓の事をたもへば結構です。東京の事を紅塵萬丈の街などゝ大さうに言ひますけれども、印度や亞弗利加に住んでゐる人さへあるのですもの東京くらゐ何でもありません。



漁村の幸

早川にて　菊野女史

▲夥しき魚類の群

私は低い緣側を下りて、すぐ左手の無雜作に出來た竹の垣を一寸押して砂地に出ました。今は朝の七時ですが、濱の賑ひは一通りではありません、恐く此賑ひが私を家の中から知

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らず〳〵曳き出したものと見えます。西空は薄絹をすかした樣にホンノリと靑空さへ見ゑますのに、今私が立て居る頭の邊から沖の方は空も海もたゞ一面灰色で、春の暮から夏の初めにかけて有がちの天氣です。「オヤ雨か知らん」と私は前に組んで居た手の甲をふと見ると、小さな露の玉が碎けて居りました、又一ツポツリ、ポツリ。私はふと此間よんだツルゲーネフの小說の中に引いてあつた「乾いた漁師と濡れた獵師とは、みじめなものだ」と云ふ佛國の諺を思ひ出しました。ジメ〳〵とした樣な空氣と色とは如何にも灰色の天が海面に垂れこめて一種の魔術でも使て居る樣に見えます。

私は年寄やおかみさん達が集つて居る小高い土手の上に立つて見渡しました。廣い濱はまるで老若男女――太い、細い、長い、短い樣々な形の人物をまき散した樣です。中にも子供の數ッたら非常なもので、砂の上をゴロ〳〵と轉げ廻て居ります。子供には賑かだと云ふ事がどれだけ嬉しいものでせふ。笊をかぶつた子供や、赤ん坊を背おふたおかみさんや、赤い襷に裾からげた村の娘や、女の子三四人の群や、尻切り半纏など着た男衆は磯から海に半圓形を書いて投げられた網の兩端を、掛け聲に合して足ふみしめながら岡の方にだくつて行くのです。こゝらでは鎌倉あたりの樣に紐の先に木つ切を、くつ附けたのを腰に結ひつけて、綱にからませ、自分は腕組したり、煙草を吸つたり、晝時には子供が持て來た辨當を其綱の間にぶら下げてムシャ〳〵やりながら引つぱつて居る、何だか其綱が龍宮からでも續いて居る樣な、そして一生でもこうして居る樣な悠長な網引とは異ひます。まして今日は、むらがつて居る魚群を現に見て居るのですから唯一度にしめ上げようと云ふ勢です。

▲エンヤの櫓聲勇ましく

かくてや〻半分も經つたと思ふ頃ふと船は地引を中止さして歸て來ました、すると四五人の裸男はイキナリ水中に飛び込んで船に乘りこむや網をたぐり初めました。たぐり終ねて其赤黑い頑丈な裸體は積み重ねた網の上や、舳先などに、つッ立つて、しきりと沖の方を瞰んで魚群の行衛を搜して居ります。

宿のお客の一人は、土地の老人から色々と說明を聞いて居る。

「ナニ網がまだ水ん中に沈まねえ先に下を潜つて逃げたんでさ」

「ハヽなーる程ね」

老人は砂地に蹲んで、しきりに煙管を横にしたり縱にしたりして網の說明をして居りました。

「一體あの魚群は如何して來たんでせふね」

ありやソウダ(鰹)でがすがね大島邊で鮗に追つかけられて此方に逃げ込んで來たんでがすよ」

忽ち「漕げよ——漕いだ〳〵」と土手の所に引き上げてあつた船の、舳先に立て居つた二人の漁師は饅頭形の笠を雨手につかんで打振り〳〵、しきりに聲はり上げイ——かすれた樣な、けれども遠くまで聞ゆる聲で沖の方に叫び初めた。

私は何事かと沖の方を見つめました。船は濱に網の一端を殘して沖の方に「エンヤ、エンヤ」と櫓聲勇しく漕ぎ出して行く

さあ濱は再び、どよめき出した。直ぐ前に居た宿の男が

「そら來たぞ………」

と五六度、私には眞似も出來ない位早口に、驚く程大きな聲で叫んだ。

魚群は忽ち磯から程遠からぬ海面に小波を立てゝ現はれました。ピョン〳〵とはね上る魚は全く銀の樣です。一群は滑る樣に山影さして游ひで行きます。ヤッ此處に！彼處にも！一ケ所、二ケ所、三ケ所。

「そーら、あつちにも友むら〳〵〳〵(魚群を云ふ)

「逃がすな〳〵、おせいろ〳〵」

と手拭を上下左右に打ちふつて漁師共はまるで氣狂の樣です、私も片唾を呑んで如何なり行くことかと目を離さず眺めて居りました。

「こん度は大丈夫でせふか」と客は心配相に尋ねて居る。

▲そら逃げたぞ

船は見ん事、三群の魚を、グルりととり圍んで網を張つてしまひました。そして船が岸に近く成つた時、忽ち船上の一人は海に、おどり込んだので、

「ありや、如何したのです」

「エ！ウムツ網があそこ迄しきや、ねーんで、あとは網でがすだ、そいで魚を逃すまいつて、あそこでバシャ〳〵やつて居るんでがす」

「ハー」と客は、もう馬鹿の樣に成て居るのです。

　其時宿から又一人の客が褞袍に向ふ鉢卷――まるで親の敵でも打つ樣な姿で出て來ました。すると何處からか燕がツイーと飛んで來て、其人の頭の上で輪を畫いて行てしまつた。私達の一群は申し合せた樣に、どつと笑つた。

　滿身の力をこめて、網の兩端を引つぱる其掛聲は丁度戰場の歌聲でも聞く樣に勇ましく響いて來る。一番後に居て、だくつた網の輪を積み上げて居る男は皆を勵まして斷ねず力のこもつた聲で叫んで居ります。老ひたるは低く短く、若きは高く、やゝ長く、さながら賑かな勇ましき合唱でも聞て居る樣です、そして波の音は其伴奏の樣に。

後の男「ほーら、どーじや…………」

老人「ゑんやさ、…………」

少年「よいとな――よいとな――と、これはのさ――」

波の音「ざゞざ――、ざゞゞ、ざゞざ――」

　魚群は逃げ場を失ふて、おい〳〵迫つて來る網の中に、小波のかたまりは、現はれたり、隱れたりして居ます。

「これで逃す樣じや駄目だぞ――」

年寄だちは手を打ふりながら

「早くしろ〳〵」

「しめろ〳〵〳〵」

「引け〳〵」

突然其時新しい聲が起つた。

「そら逃げたぞ――」

私は「アレッ」と思はず叫びました。

「逃したぞ〳〵」

魚群は忽ち網を、はなれて逃げて行く。なんて事だろう、此度こそは占たと思つたに。後に居た漁師は奮然として

「拔けやがつたぞ畜生！」

「逃げ場、見附けやがつた」

「そうよ、穴探しやがつたんだ」

然し網は止めません。

「オ、まだ網ん中に居やがるぞ」

「元の穴から、這入つたんづら」と女の聲が聞ゑる、

「そーじやねー―他の奴が居るんだ」

拔け出た魚群は一目散に石橋の方さして逃げて行きます。忽ち隣網の船は其後を追ひ出した、そして間もなく先の網の外側をグルリと、とり圍んでしまひました。やはり此魚の運命

はつきて居つたものと見えます。

▲網はバタ〳〵と動いて

網は二處で引き出しました。先の網の輪がズーッと小さく成つてしまつた時若い衆は着物を濱にぬぎ捨てゝ波の中に踏み込んで「エンヤ、エンヤ」と網を引き出しました。重そうな網は波の勢で、ざつとばかりに打ち上げられます。鯨波の聲は一時に起る、私も人々と一所に馳けつけました。

とれた！〳〵尺五寸位の眞つ青なソウダ鰹が、網はバタバタと動いて生血に染て居ります、丁度戰爭のあとの捕虜の様です。あはれな捕虜よ、ア、吾々が住むで居る陸よりも廣い海の國、吾々が活きて居る社會よりも自由な海の生活、吾々の装飾よりも美しい天然美。これが魚の生命であるだろふに。しかし美事な捕虜がある！。大さな圓い籠が運んで來られた魚は尾をひつさげて投げ込まれます、其數少くとも五百尾は下りますまい。荷ふて行く天秤はしわみながら忽ち運び去られてしまひました。

私が此光景を見て居る間に、船は再び出掛くる用意を初めて居ります、網積まんとて立ち働く若者等の體格――赤く日に燒やけた皮膚、海からでも生れて來た様な容貌。後手に網を引すつて行く男の腕の筋肉、ア、自然がものせる創作、勞働の賜！、なんて見事なんでせふ。隣の網も川向ふで大分とれたらしかつたのです。

人々の心は、かくてお祭の前日の様に落ち附かずに早、晝も過ぎて、大陽は後の山の端近く傾きました。夕日に碎くる波の姿は、マッ白い花が光を見てパッと開いた時の様に如何にも目ざましく。渚の人々は、さながら燃ゐ立つ様にまぼしく、暫し此世は黄金白金、きらびやかなる王國の様に輝いて居ります。ア、思へば雨は何時の間に止んだのでせふ。

▲おゝ今宵は望の月

山も渚も夕もやに包まれて暮れ行く頃には此度は白子網が仲々賑つて居りました。波は誠にゆるやかに磯を洗つて居りますが、女や子供は時々裾などぬらして騒いで居ります。灰色を帶びた薄紫の空と海、海面は見渡す限り波の影だに見えず、たゞ水平線がやゝ彩られたのみで、ざちらが空か海かと思ひまざふて居りますと、水平線をやゝはなれた空に圓い薔薇色の光がほのかに匂ひ出して來ました。オ、今日は丁度望月なんです。私は人々の群を少し離れた砂地に座して、空と海とが溶け合ふた中に追々に光をまして行く月を打まもりました。

ア、幸なりし一日！村人の心々に望や、喜びや、感謝を與

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

へた惠多き今日の一日！私はそを短しとは云はぬ、そを少しとは云はぬ。ア、此月の光の清く優しきは此漁村を祝福して居るのではありますまいか。眺むればながむる程私は月が如何に人類に親しみ深いかを感ぜすには居られません。網をかこめる人々の聲は夜氣に響いて何處か遠い〳〵離れた世界の聲でも聞いて居る樣です。私は人の心ともなく、月の心ともなく、捕れた魚を小笊に入れて家路を急ぐ老若男女を見送つて兩の頬には覺ゑず數行の涙が。たゞ一人お暗き濱にとり殘された私は月の光が波に碎くるのを見て家に歸りました。
夜に入りて私は又月が誘ふまゝに濱一面の足跡をふみながら逍遙ふた。そこに小川が流れて居ります、白金の糸を織る樣な小波はサラ〳〵と、さゝやきながら村の方から流れて來ます。背面の山々は空深く重々しく沈んで、月の光に明るいよりは一層暗く、麓の村々は今日の夢でも結んでるかの樣に如何にも平和に見ゑます、私も亦夢みる人の樣に波の音小川の流、また月のさゝやきに耳を傾けました。ア、天地は今や、かのシヤバンヌが書きし「神秘の森」——月匂ふ夜の天つ少女が其畫面を、ぬけ出でて白金の、お琴かきならしながら、此眠れる漁村の上を祝福しつゝあるかの樣に。

割烹は最良の消夏法

嘉悦孝子

怒るな、働け」の標語を振りかざして、一身を模範に女子商業學校を經營して居らるゝ嘉悦孝子氏を、其學校にお訪ね致しました、御多忙の御樣子でしたから、ほんの僅かの時間で御暇致しました。此夏休み中の御計劃はと御尋ね致しますと、只今どうと云ふ新計劃も御座いませんが、との御話、一寸した御話の中にも尚先生の御氣性と其學校の風が思はれる事でした。（記者）

近頃避暑といふ事が一種の流行になりまして、今年は何處

に避暑に行く」とでも言はなければ變に肩身か狹い氣がすると云ふ様な妙な現象が見ゑますが、之が貴族とか富豪とかの身分の人で、吞氣に世を暮らし得る人達 又は身體に病氣でもあつて療養をしなければならぬ事情の人々は格別の事として一體私は避暑といふ事は贅澤な沙汰だと思ひます。吾々風情の身分なら、爲す可き仕事も澤山ある事なり、特に暑いと云つても堪へられぬ程の事ではないのでありますから、避暑の轉地のと洒落れる必要はなからふかと思ひます。

それ故うちの生徒は夏休みには親許に歸つて專ら家事の實習をし、側ら學校で習得した處を應用して、例へば割烹で申しますなら、裏の畑のものでも甘く見繕つて、晩餐のお膳を賑かにして兩親を喜ばせるやうな、最も實着にして有益な方針をとるやうに勸めて居ります。

それで毎年の夏八月一日から二十日まで此學校で割烹の講習會を開いて、有志の方々と一生懸命に働いて居りますが、今年は廣く會員の方々を御招ぎして比較的大きくやつて見やうと思つております、盛暑の時でも朝晩は凌ぎ易いから、讀書とか或は其他の事も出來ますけれど、日盛になると、身體が怠くて一寸仕事にかゝる氣になれませんが、併し此時一つ奮發して臺處に下り立ち、襷甲斐〲しく結んで、キリツとした身容になりますと、氣分も自ら引き立つてまゐります。そして種々出來上つて來ます料理も面白いし、始終水いぢりを致して居りますから、暑などは自ら消ゑて仕舞ひます。避暑地に往つて貴重な時間を只ブラ〱して暮らすのと比較しますれば、どんなにか涼しく且つ愉快に暮されるか知れません。去年でした、ある奧様が講會習においでになつて、私共の働いて居る處を御覽になり、こんな面白いものなら、娘を避暑先から呼び返へして、割烹を習はせませうとお仰つた方も御座いました。

近頃世の中から現今の女學生は役に立たぬといふ評がちよい〱聞ゑますが果して如何いふものでせうか。此評を眞面目に聞いて、思ふ通りの役に立つ女子に仕立やうと思ひますと、現にやつて居ります課程ではどうしても足りないから、身體の上でも時間の上でも、もつと〱學生をイジメなければなりませんが、然し之は容易ならぬ事で、女子の健康狀態がこれに堪へ得るかどうかといふ事も考へなければなりません。此學校でも追々は實習部を設けて直接實務に當らせて見やうかと思つております、只今其試驗中なんで御座います。女子の身體でも働き通して來た上級の生徒なら、至つて丈夫で、少し位イジメても影響を受けませんが、まだそこまで行かない途中の者は、往々にして故障が起り易い様ですから、此邊の處が中々考物だと思つて居ります。

併し役に立つ立たぬといふ事も、學校在學中に特殊の技藝を成る可く多く習得させる事で定まるものでもありますまい卒業生が世の中に出ると直ぐに何にも藝能がないから役に立たぬといふのは決して正當な批評ではなからふと思ひます。知らぬ職務に當つてもある時日の中に之を理解し處置し得るだけの常識があつたら、それで充分だろふと思ふのであります。それで此學校では常識の養成といふ事に専ら力を盡して居りまして、一般家庭の主婦として知つて居つて便利な事、――例へば金錢の出納、帳簿の記入、銀行の手續等總じて經濟的智識を合せて授けて居る次第で御座います。これによりて最も實着で健全な女子を造つて社會の實際的の要求に應じようとの覺悟であります。（談話筆記文責記者）

ユダヤの女

（アナトール・フランス）

別處梅之助譯

一

六ケ月の後、レイタは、自分の邸の中庭で、紫の床に横になつて、意味も何もない小歌、子供の時に母人が歌つてくれた歌を、小聲で歌つてゐた。泉の水、花やかにあふれて、その淺い盂には、わかいトリトン神の大理石の像がたつてゐる風薫つて、篠懸の木の老樹の葉をそよがしてをる。果樹の園をはなれてゆく密蜂のやうに、疲れて、弛くつて、幸で、大儀で、若い女は、ふくよかになつた身體の上に、双の腕を十字に組んだ。そして歌をやめて、あたりを見廻し、いひしらぬ誇をおぼえて、あゝと息をついた。

レイタの足下には、奴隷たち、黒人、白人、黄人の奴隷たちが、そのうちに生れようといふ嬰兒の衣服をこしらへるとて、負けじ劣らじと、忙しく針をはこぶ、梭を飛ばす、糸を紡ぐ。レイタは、手をのばして、老いた奴隷がお世辭笑ひをして捧げた、小い頭巾を受けとつた。レータはにぎつた手の上に、それをおいてみて、笑みかへした。紫色の小い頭巾、黄金、銀、眞珠の飾、あはれなアフリカの奴隷の夢のやうに

榮々しかつた。

そりしも見馴れぬ女が、この中庭にはいつて來た。女は道の塵埃のやうな色をした、一枚布の縫目のない衣をつけてゐた、その長い髮の毛は灰を被つてをる、それでゐて、幾度か涙に洗はれた顔は、なほ榮と美しさで輝いてゐる。

奴隷らは物乞と見あやまつて、追ひ出さうとした。レイタは、一眼みて、それとさとり、たち上つて、走りよつた。

レイタは叫んだ。マリア、マリア、そなたが神の思召にかなつてゐる事は、本當だつた。そなたが地上で愛した方が、天でそなたに應へ、そなたのとりなしで、私の祈願を容れて下された。これ御覽と、まだ手にしてゐた小い頭巾を見せて、私は、どんなに幸だらう、そなたには御禮のいひやうもない。マクダラのマリヤは答へた。それは存じてをります。レイタ殿、私は、あなたにイエス、キリストの眞理を敎へに參りました。

レイタは人拂をして、マリアに金で繡のしてある蒲團のついてをる、象牙の椅子をさし出した。しかしマリアは、厭はしげにそれを押し退け、風にそよぐ篠懸の大木の影をおとす、地上に座つた。

マリアはいつた。異邦の御婦人、あなたは主の弟子を蔑にせられなかつた。それゆゑ私が存じてをりまするイエス様を、あなたにお知らせ申しませう。私が方様をいとほしみます樣に、あなたもないとほしみなさい。人の子の巾の一番お美しい方に、はじめてお眼にかゝつた時、私は罪人でした。

かくてマリアは、癩病人シモンの家で、イエスの足下に身をなげふした事、蠟石の盒に入れたナルドの香油を殘りなく、いとしき師の君の御足にそゝいだ事、さては優しい師の君が、むくつけき弟子たちのつぶやいたのに對して仰せられた言まで、そのまゝに言うた。

なぜ、そなたたちは、この女を悩ますぞ。これは、よい事をしたのである。貧しい者はいつも居るが、私は、いつも居りはせぬ。これは私の葬の爲にとて、わが身に香油を注いたのだ、まことをいはば、天の下いづくにてもこのよき音信の傳へらるゝ所には、この女のしわざも傳へられ、たゝへられようぞ。と仰せられました。（マタイ二—六〇六—十三、マコ十四〇三—九、ヨハネ十二〇一—十一）。

それからマリアは、おのれについて離れなかつた七の惡鬼を、イエスがおひ出された事をも述べた。そしてなほ、かう言つた。それからのことは、信仰と愛との喜に醉うて、うつとりとして、私は、新なエデンの園にをる心地して、師の君の陰に住んでをりました。マリアは師の君と共に眺めた野邊の花の事、信仰のみが産みいづる限りなき幸をかたつた。それからなほ主が囚はれた事、人々の救の爲にお死になされた事をのべたてた。マリアは、御苦難、御葬、さては御蘇生のいひ得ぬ景色をおもひおこした。叫びいふ。

私でした、皆の中で方様をはじめて御見上げ申したのは、私でした。イエス様の御遺骸を御置き申した所の、お頭の方に一人、おみ足の方に一人、白妙の衣をまとうた天の使のゐますのを、私が見ました。天の使は、私に、女よ、なぜ哭くといひました。私は、わが主をとりさつた者があつて、どこに方様をお置き申したかわからぬから哭くと、答へました。

まあ、あの時、イエス様は私にお近より遊ばされた。私ははじめ園丁と思つてゐました。それを方様がマリアと呼びなさいました。お聲ですぐ分りました。私は、師の君とよんだまゝ、おすがり申さうとしました。しかし方様は、おしづかに、私にさはるな、まだ私はわが父君のもとに昇らぬからと仰せられました。

この物語を聽いてをるうちに、レイタ、アシリアは、自分の喜と滿足とが次第々々になくなつていくやうに感じてきた。過ごこし方を顧み、わが生涯を吟味すると、神樣を愛したこの女の生涯に比べて、實に單調なと思はれる。若うて、敬虔深くて、貴族である自分のこれぞ上なき花やかな日といふのは、むすめ時代にお友だちとお菓子を喰べてたころ位なもの曲馬を見にゆく、ヘルピアスは愛してくれる、針仕事をする、それが今の生涯。マクダラのマリアが、その情と靈とをあふりたてた景に比べては、それが何にならうぞ。レイタの胸は、にがい嫉妬と、茫漠とした怨恨とで、おしつけられるやうになつた。レイタは、このユダヤの女を猜んだ。痛悔の灰の下にも照りわたつて、光を放つ美しさ、その神々しい危難、さてはその悲哀さへも憎たつた。

レイタはせきくる涙を手で拂ひいがら叫んだ。ゆきなさい、

ユダヤ人、かへつておくれ。たつた今しかだまで、私はあんなに滿足してゐた。私は自分が幸福だと思つてゐた。私は、私の喜の外に、そんな變つた喜があるとは、知らなかつた。私は、あの人柄なヘルピアスの愛より外の愛を知らなかつた。私は、お母さん、お祖母さんの御樣子に、女神の不思議をしのぶより外の神々しい愛を知らなかつた。あゝ分つた。惡性女め、そなたは、私が今まで送つてきた生涯に安んじてゐられないやうにしようと、計つたのだ。さううまくは往かないよ。なぜ、そなたは、目に見ゐる神樣に對するそなたの愛を話したのか。そなたは、なぜ私が見る事も出來ないのに、そなたの先生の蘇生を見たなんて、こゝで威張つたのだね。そなたは、子どもをもつたといふ私の、私の喜をも臺無しにしてしまはうとおもつたのだらう。ひどい奴め、そなたの神を知る事は御斷りだ。そなたは、その神をあまり愛しすぎてゐる、その神を喜ばせようといふには、遊女に身を墮したり、神の足下で散し髪になつたりしなければ、ならない。そんな眞似をして拜をして御覽、ヘルピアスは惑迷する。私は、散し髪になるやうな宗敎は、眞平御免さ。そればかりか、私のお腹の嬰兒にも、キリストとやらを知らせないよ。この可愛い小い嬰兒が、女の兒であつたら、私の指ほどの陶器の小い神々樣をいとしむやうに敎へませう。その陶器の神樣ならば、こはい事もなく、あの子も遊べます。お母さんや、子どもには、それが相當な神々樣だよ。自分の艶つぽい話をきかした上で、お仲間に入れようとは、そなたも、ひどく厚顏しいね。そなたの神が、どうして私の神になれるね。私は、罪人の生涯を送つた事はない、私は七つの惡鬼につかれた事もない。私は、人目をひかうと辻々をさまようた事もない。私は貴人だよ、淑女だよ。さあ、おかへり。

マグダラのマリヤは、この女の改宗する事が、御旨ならずと認めて、後にきよき洞といはれた野の岩室に退いた。いづれの敎會史家もレイタ、アシリアは、こののちなが年、キリストを信ずるに至らなかつたとおもうてをる。私は、この一段を古人の敎に、綴つたまでである。

新刊紹介

●家庭看護法　兒玉修治述　內外出版協會發行　定價金參拾五錢

家庭に於て必要なる看護法の一切を網羅し丁寧親切に說明しあり、卷尾に救急療法も添へあれば家庭には極めて便利なる書なり

●お伽草紙　柴田流星著　敎文館發行　定價七錢

日曜學校話材として編せしものにて正直太郎、白百合姬二篇を收めたり、何れも面白ければ坊ちやん孃ちやんだちには大受にうける事なるべし。

信仰美談

渡瀬常吉

△聾の娘によりて救はれし父母の實驗△
△五年間帶を解かずして夫を看護した嫁△

◎聾の娘

五月の初めであつた、余は傳道の爲めに、岡山縣下に赴いた。各地を轉戰して、遂に作州の久世落合と云ふ所に迄で到つた。久世落合は作州の片田舍で、山陰と背中合せとなつて居る所で、遙かに山岳の蜒々たるが龍蛇の觀を爲し、近くは丘巒が起伏して翠色滴らんとして居る。それに至る所の田園が、氣持のよい程手入れが屆いて、些かも旅行の苦痛を感ぜなかつた。殊に時には藤の花が今を盛りと咲きこぼれ、溪間の水に其の長き花の束を流して、丁度美人が髮を洗ふて居る樣な風情や、半夜枕頭に泉の音する中をば、杜鵑が鳴いて過ぐるなど、詩情參差として轉た人をして恍惚たらしむる者があつた。

斯くて余は久世を過ぎて落合に到り、高田と云ふ一紳士の家に止宿した。山を負へる蕭洒たる氏の居室、余は雨聲を友として一夜を過した。高田氏は熱心なる信者で、將來益々斯教の爲めに奮鬪せんとして居らるゝのであるが、氏の回心の動機には、悲慘なる歷史がある、悲慘ではあるが實に麗はしき物語りである。余が讀者に告げんとするのは此のことである。

氏は數人の子女を擧げられたが、其の中の一人に「政ちやん」と云ふ令孃がある。氏等夫婦はそれを尋常の小供と思意しつゝ、育てられたのである。所が三歲の時にそれが全聾であると云ふことが分つた、此れが爲めに氏夫婦は失望し落膽した。其の當時の苦痛は、筆紙の及ぶ所ではなかつたらしい。氏等は此の時まだ信仰を有して居られなかつた。それで其の苦痛は、一層甚しかつたらしい。聾の父と呼ばれ、聾の母と云はるゝが、誠につらかつたらしい。それが爲めには泣き

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲有益なる婦人の讀物

基督の模倣

日高善一譯述

定價七十錢　郵税六錢

トマス、ア、ケムピスの『基督の模倣』は聖書に次ぎて今日も世界の基督敎徒に愛讀せられ居る書なり。日本にも從來同書の飜譯せられしもの二つありしが、其の中松田承久氏の『世範』と名付けられたるもの廣く行はれたり。此度また日高氏の譯書新たに世に出づ。之を見るに『世範』よりは種々の點に於て進歩せりと言ふを躊躇せず。譯者が此の勞多き事業を斯くの如く成功されたるを多とせざるを得ず。日本の基督敎徒は、信仰を養ひ德を立つるの好伴侶を與へられたりと謂ふべし。【福音新報の評】

淑女の美德

文學士皆川正禧譯述

上製美本　定價五十錢　郵税六錢

他愛、誠實、修養、品性、朋友、快活、愛と犧牲、勤仕、幇助と妨害、書籍並に讀書、家庭の生活態度、衣服の嗜好、圓熟以下現代の婦人に必要適切なる要件都て二十九章を、言文一致の最も解り易き文章にて敍述す。說く所何人にも實行し得べく、有益にして又面白し。婦人の必讀書と謂ふべきなり。【報知新聞の評】

偉人に及ぼしたる婦人の感化

西洞たみの編

（上製美本）定價金六十錢　郵税六錢

西洞たみの女史が不治の病と苦鬪の間に於て、尙ほ其の一片世に盡さむとする心は瘦せたる手に筆を捨てず、遂に此の書は成れり。アリス、コルクラン女史の著に基きて編めるものにして、男子の伴侶として、慰藉者として、母として等、偉人を感化せる婦人の事歷を擧げ生涯を傳へ、以てやさしく美しき婦人の感化の如何に大なる力あるものなるかを示す。婦人の讀物として近來に無き良書と謂ふべく、其の文殊に優雅也。【家庭週報の評】

▲興味多き家庭の讀物

佐々木邦新譯

當世良人氣質

定價金四十錢　郵税四錢

當世細君氣質

發賣　定價金四十錢　郵税四錢

天下の奇書として大評判となり、漱石の『猫』や『肉彈』などが出た當時にも優して讀書界を騷がせた彼の『いたづら小僧日記』や『おてんば娘日記』と、原著者も譯者も同じい珍書である。譯者佐々木氏の文ます〳〵輕妙圓熟の度を加へて來て、眞似手の無い妙味が全卷に溢れて居る、原作以上に面白い處も少なくない、敍述が實に活躍的で、輕快で、開卷一二頁、直ちに讀者を捉へてしまふところが非凡い。上品な滑稽の筆に於ては實際天才だ。尙ほ此の書が殊に吾々に面白く讀まるゝ所以は、作者が世の中の良人たる者を寫したやうに書いてなくて、妻君が其の良人たる者を寫したやうに書いてある點にある。【新公論の評】

小說 少年僧正

碧川紅雨譯述

（上製美本）定價金壹圓　郵税八錢

原著者は米國サーストン氏なり。トードと云ふ不良少年が、一少女と其の弟なる嬰兒を惡婆の手より救ひて初めて純潔なる愛情を味ひ、更に慈愛に富めるブルックス僧正に接し其高き人格に感化せられて、遂に全く改悔するに至り、新生涯に入りて幾多の善行を積むといふ小說なるが結構非常に面白きが上に、譯文又流暢にして何人にも愉快に讀ましむ。吾人の如きは一讀卷を閉づるに忍びず。再讀を重ね多大の敎訓を受けて、第二の『噫無情』を讀むの感を起したり。實に近來に無き良書と謂ふべく、譯者の勞を謝すると共に汎く江湖に推薦す。【報知新聞の評】

出版元　東京巢鴨町上駒込二十番地　振替口座東京三百五十五番　**內外出版協會**

内科、小兒科、婦人科

牛込區北山伏町十二番地
區役所通り西三四丁

女醫　前田園子

電番一九一二

午前宅診　午後往診

IVORY SOAP
アイボリー石鹸
Procter & Gamble, Cincinnati

日本輸入品に限り包裝紙に斜に「**アイボリー石鹸**」と記入し一見模造惡質石鹸と判別に容易ならしむ

御購求の節「**アイボリー石鹸**」に御注意を乞ふ

看護婦募集

▲本會は從來小石川小日向臺町に設置して居りましたが、此度業務擴張のため麴町區飯田町五丁目一番地に移轉しました目下看護婦派出の申込多きにつき此際經驗に富む看護婦を廣く募集致します希望者は至急御申込あれ

▲本會は病家の需に應じ速に經驗あり叮嚀なる看護婦を派遣致します

麴町區飯田町五丁目一番地

同志看病婦會

電話番町一四八一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

産科婦人科

毎日午前九時より午後二時まで
但日曜日休み

醫學士 伊庭秀榮

京橋區南鍋町一の一
電話新橋四八六三

主筆海老名彈正

新人

七月號目次

每月一日發行

定價 一冊拾五錢 六冊八拾五錢 十二冊壹圓六拾五錢 郵稅共

▼自然界との靈交 （社説）
◉基督敎道德と現社會 富永德磨
▼健正なる生活の理想 文學士 三澤糾
◉新約思想の背景 中村長之助
▼「牧師の家」評論 小山鼎浦・高濱長江・一色醒川
◉道元の辨道話に現はれたる宗敎思想 金子白夢
▼宗敎劇「その家の僕」 中村春雨
●パン問題 鈴木法學士
◉慈母の惡人（東部講壇） 中島德藏
●天才論（敎壇） 海老名彈正
●隨感錄 川島風骨

小石川小日向台町三ノ九三
新人社事務所
振替一四〇〇五

早稻田大學講師 安部磯雄著

婦人の理想

（卓越雄大なる婦人論 婦人は勿論、經世の士の看過すべからざるもの）

菊版箱入、裝釘優美
定價金壹圓貳拾錢
郵稅八錢

婦人として職務を偏重し人間として發達に多く意を用ひざる女子敎育は根本的に誤れり男子と婦人は便宜上職務を異にすることを有れども其體力、智力、德力を發揮せしむるに當り其機會及權利に於て何等相違の有るべき筈なし故に婦人の理想は出來得るだけ男子と並行して諸能力を開發せしむるにあらざるべからず今や婦人に對する著者の熱烈なる同情は凝つて此一篇を成せり

早稻田大學講師 岸本能武太著

英語研究 發音の原理

（最新最精の英語發音法）

定價七拾錢
郵稅六錢

海老名彈正著

斷想錄

（海老名牧師敎壇獅子吼の餘響）

（近刊）

發行所 東京市小石川區櫻木町六 北文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もし、怨みもされたらしい。併し神の力は斯る時に閃めくもので、氏も此の苦痛の刹那に慰安を得たしとの望みを起され遂に辿り〱て今は聾の娘の父たり母たるを感謝する迄でに至られた。父母が其の子を愛する一片の誠は、やがて奇しき天父の愛の御手に觸るゝに至らしめた。「政ちやん」は聾に生れて呉れたので、其の父母は靈覺を得られた。氏が此の苦悶奮闘の一節は一冊の單行本となりて出づる筈であるから、今は贅せないが氏は此の「政ちやん」なる聾の娘を通して、今は信仰に進みつゝあられる、余が止宿した時には、日曜學校の爲めに盡力して居られたが、今度は更に躍進して傳道に盡瘁せんとして居られる。頑是なき聾の娘でありながら、其の父母を救ふたのを思へば驚嘆の外はないが、此の宇宙の現象は悉く神の何物をか、語つて居ることを思へば、高田氏が其の愛娘が無言の中に語つて居る處に、耳を傾けたのは偉なりとせねばならぬ。

余が止宿した翌朝、襖の間からのぞいて、アーアーと呼んで居つたのが、其の政ちやんで、可愛い怜悧な其の顔が、今も尚ほ目に浮ぶ樣な氣がする。

◎嫁が本尊

作州津山の附近に、古河と云ふ村落がある。其の地に一豪家がある、河田氏と云ふ。余は久世落合よりの歸途、同氏の宅に於て一場の演說を試みた。

十日ばかりの間に、數回の演說會を催し、村里の誰れ彼れを案内し、熱心懇切に盡力さるゝ有樣が、如何にも譯けのありそうであつた。果然半白の老夫婦を、感動せしめて居る、一大動力の存在することが分つた。

河田老人は余に晝食を供されたが、其の間にかいつまんで、語られた其の信仰の由來は左の通りである。

河田氏の令息は、早稻田大學に學んで、極めて熱心なクリスチャンとなつて居られた。同大學を卒へて歸鄕されたが、其の時が丁度日露戰爭の眞最中で、村内に於ても出征軍人の、勇ましく滿州指して出發する者が少なくなかつた。それ等の出征軍人がいざ出發と云ふ時には、右河田氏の令息は、率先して之を社頭村端に送つて、其の行を壯にされた。やがて戰塵收まつて凱旋する者が陸續と、勳功を肩にして歸へつて來たが、此の時にも殊に率先して歡迎に勉め、半夜三更をも厭はず、之を犒らひ痛はり、村民と歡を共にし悲しみを分つた所が此れが原となつて遂に氏は肺患に罹つた。氏の令閨は山陽女學校の出である、氏に嫁して一男子を設けたが、間もなく夫は肺部の大患に艱むことゝなつた。爾來五年間轉々地を換へたが遂に恢復を見ることが出來ず、氏は須磨の客舍に永遠の眠りに就かれた。此の間に處したる、令閨の勇ましき奮闘の生涯が、實に老夫婦をして、遂に信仰に入らしめ、不幸の中に感謝の歡喜を存するに至らしめた原因である。老河田氏は涙をすゝりながら、若婦人が其の令息看護の當時を語られた。あれが病中嫁は一日も其の枕邊に侍して居らぬことはありませんでした。其の小供は婆々に任せたまゝ、自分は看護婦と共に、晝夜の別なく看護を致して吳れました。隨分息は氣短かの方で、それに病氣も手傳つて居ましたので、氣六

ケしくなつて居ましたが、それに對して懇切至誠、殆んど四五年の間、帶を解いて寢に就いたことは一日とはなかつたでしよふ、ドウシテ〳〵とても私などの及ぶ所ではありません。此れがために息も非常に滿足し、私共も只た〳〵嫁の氣立が有難くて、感じ入りました。それで遂う〳〵信者にもなり、唯今では一家凡て神に事へて毎日感謝致して居るのであります。自分の口より申すのも如何でありますが、私方では嫁が本尊で、私共夫婦もあれの申す通りに致す積りであります。息の大患や永眠が、一家歡喜の本となつたことを考へますと、實に神の御攝理程妙なる者はありません。息も私共が信仰に這入りましたのを、見まして大きに安神して眠りに就きました。此の歡喜と感謝とが、聊か斯敎の傳道に貢獻したいと思ひ立ちました譯であります』と、語られた。余は之を聞いて坐に感涙を催した。其の中に未亡人が出て來られた。でつぷりと肥えて、意志の强固な所が、自から表はれて居つた、しかし如何にも物柔かな優さしい物ごしで、余が遠來の勞を謝された。實に此の婦人が一家を救ひ、一村を風化されつゝあるかと思ふと自から尊敬の念の湧起するを禁じ得なかつた。婦人はかよはきも至誠は强し、實にも貴きは清き犧牲の生涯なるかな、余が心に感嘆しつゝある中に、目のくるくるとした、可愛ゆき坊ちやんが走つて來られた。此れが逝に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し河田氏の遺孤で、母の傍らに正坐して、余に向つて頭を垂れられた。余は何れも云へぬ感じに打たれ、覺へずハンカチフを目に當てた。今も思ひ出す毎に『嫁が私方の本尊であります』の一語が肺肝に響く心地がする。

◎涙の祈

一友人の細君が、産後の肥立惡しくして、三人の小供を遺して、永眠されたのである。余は直ちに其の家を訪ふた。白布に掩はれた婦人の遺骸の前に、默禱して弔詞を述べ、友人を慰めて引き取つた。此の時には滿腔の同情に溢れて居つたが、涙が出なかつた。越えて一日葬儀が營まれた。十字形の花や、圓形の花が、棺に載せられて、式場にかき入れられた。時に友人は中の男子を抱き、下女は生れて四五十日の末子を負ひ、十歳ばかりの長男は紋付きに袴を着し、靜かに棺に從つて入つて來た。一見既に斷腸の思ひがあつた。やがて哀歌を唱し、余は起つて聖書を讀み、禱を獻げたが『在天の父願くば後に遺りし三人の小供等の上に一層の惠みを與へ給へ』と云ひ出づるや、堰き止めし水溜を決した樣に、涙あふれて聲出でず、我れながら、こは不覺なりと思へど、止めん術もなく、しばし立ちすくみたるまゝにて、漸々祈り果てたが、母の喪に頑是なき小供の從へる程、世に哀れにも悲しいものはない。もうたまらぬとつく／＼思ふた。しかし斯樣ことで泣いた後程、氣の清々することはない、誠の迸つた爲めでもあらうか。

◎少年少女の心

余の老父母が重患に陷つたと云ふので、忽々行李を整へて上京した、枕邊に侍して十日ばかりを費したが、一日まだ祖父祖母の顏も知らぬ孫どもから見舞の手紙が來た、余は其の讀み役を務めた。覺束なき片假名や平假名の手紙であつたが何れも天眞の輝きが流露して居らぬはなかつた。其の中に余の長女と日向に居る姪とが、同じ樣に私共は毎朝おじいさまとおばあさまの爲めに神さまに祈つて居ります、神さまは乾度あなた方をよくなして下さいますから、どうぞ元氣を出してよくなつて頂戴との意味が記されてあつた。余は之を讀みつゝ幼な心の尊さに打たれざるを得なかつた。父も母も之を聞いて鼻つまらせて感じて居つた。余は彼等の危機も去つたので歸途に就いた、神は彼等の祈りを聞き入れ給ふたものと見ゐる。少年少女の心も祈となつて出づる時には、中々强烈なものとなるものと云はねばならぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

我國女性の消息文

海老名一雄

書簡は人の心を寫せる鏡、その日〳〵の日記文と相並びて、傳記文學者が珍重措く能はざる所のものなり。彼「一筆啓上、火の用心云々」の小句が戰國武士の撲直なる風貌と、周到なる用意とを我らの眼前に髣髴たらしむる如く、古來偉人才媛の消息文にしてよく時代の精神を察するの便となるを得しめ歷史家の篋底に秘藏せらるゝもの亦頗る多き也。啻にこれのみならず、書簡はこれを文學として味ふ時無上の興味を我らに與ふ。文豪の往復文藻は其眞率なる點に於て常に彼等が詩文以上の價あり。殊に虛飾なく、衒氣なき高潔なる人格より出でたるものは、其貴とき事また一入なり。

古より書簡として今日に傳はれるものゝ中、最も偉大なるものを擧げよと問はゞ、何人も先づ新約に收むるパウロの文に指を屈すべし。其他文豪、偉傑の書簡にして人口に膾炙せるものを云へば、ゲーテ、シルレルの往復文、ゲーテ、カーライルの往復文、エマーソンの書簡、ハイネの消息などこそ就中我らを喜ばしむるものなるべけれ。また我國近代の文人が遺稿の中にこれを求むれば彼樗牛の書簡あり、梁川の書簡あり、樗牛全集は彼が堂々の評論、絢爛の美文に於てよりも、寧ろ其直裁なる書簡集に於て一層世人の愛讀を受けたりし也。書簡は人情の自然的流露なり。徒つて行文自ら平易明快、且多くは短文にして冗長に失することなし。故に夏期休暇中の讀み物として最上乘のものたるを疑はず。一年の長き勉强に疲れたる頭を山紫水明の仙境に横たへ、凉風起る所おもむろに一卷の書簡集を繙いて古人が衷心の響きを聞かば、其樂や果して如何許ぞ。余がこゝに採錄せんと欲するは必ずしも眼新しきものに非ず。されど我國古の女性が美しき心情の寫眞として頗る味ひ深きものなりと信ず。故に今更堂々の文をやりて消息に顯はれたる日本の女性を論せんと欲するにはあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らざるなり。只三四の文藻によりて古人のやさしき面影を躍動せしめ、以て緑陰一味の清風を加ふるを得ば余が目的はすなはち達せられたるのみ。されば敢て順序を設けず、分類を試みず、思ひ出づるが任に捕へ來らん乎。

木村重成の妻の文

書簡とし云へば先づ思ひ起さるゝは木村長門守重成の妻眞野氏が文なり。眞野氏夫が義戰忠死の意既に決するを聞くや乃ち一書を裁してこれが餞とす。

一樹の蔭、一河の流、これ他生の縁と承はり候にこそ、そもおとゝせの頃よりして偕老の枕をなして、只かげの形にそふが如く思ひ參らせ、おもはれまゐらせ候、この頃承り候へば、此世かぎりの御催しの由、かげながらうれしく存じまゐらせ候、唐の項王とやらんは、世に猛きものゝふなれど、虞氏の爲に名殘を惜み、木曾義仲は松殿の局に別れをなげくとやら、されば世に望みきはめたる妾が身にて、せめて御身御存生の中に最後をいたし、死出の道とやらんにて奉待上候、かならず〳〵、秀頼公多年海山の御鴻恩、御忘却なき樣、願上まゐらせ候、めでたくかしこ。

重成は我國武人の典型、眞野氏はこれ烈女の好模範なり。而して一は絶世の美男、一は傾國の美姫、蓋し絶好の詩題也。

此文嚴たる秋霜の風貌を以て、中に限りなき女性の優しさを示す。三讀四誦措くに忍びざらしむ。こゝに一文あり、日露戰爭時のものとして傳へらる。曰く

愈よ御出征の由、御名殘惜む印は唯涙一滴。かくなる上は凱旋のみを夢みは致さず。あはれ敵彈にも中り給はゞ、臨終の際に必ず此白絹もて血染めの日の御旗一旒殖やし給へ。

余はこれを以て眞實婦人の手に成りしものなるやを疑ふ。前者と比較對照して興味索然たらしむるもの幾許ぞや。血染の日の御旗云々只輕薄なる才氣のほのめけるのみにして纏綿たる情緒秋毫も認むべからず、あはれ智に捕はれたる現代の婦人は禍なる哉。

一休禪師の母の文

鎌倉、室町の世にありて禪宗の流行盛なるや、婦人の身を以て其道に志し、天晴一かどの善智識となれるもの少なからず、彼一休禪師が母の如き其一人なり、禪師が母は南朝の一忠臣の家に生れぬ。深く南風競はざるを憤り、女官となりて宮中に仕へ、窃かに北朝の宮を犯し奉らんと圖りつ、後年志を更めて佛道に入り、専ら南朝の遺靈を弔ひたりと傳ふ。其文に曰く

われら娑婆のねん盡き、無爲の都におもむき候、御身よき

出家になり給ひ、佛性の見をみがきそのまなこより、我々地獄に落つるかおちざるか、不斷添ふかそはざるかを見給ふべし。
釋迦だるまを奴となしたまふ程の人に成給ひ候はゞ俗にて苦しからず候、佛四十年說法し玉ひ、ついに一字不說とのたまひし上は、我と見、我と悟るがかんようふに候、何事も莫妄想、あなかしこ

九月上旬　　不生不死身

千菊丸どのへ

千菊丸とは一休のこと也、此文に於て余は何となく物凄き感にうたるゝを覺ゆ。而かも機微の間女性の面影あり、母の慈愛輝くを認めざるを得ざるべし。

野村望東尼の文

德川の季世、紛亂擾々の時にあたり、鎮西黑田藩の中に一人の勇ましき女性ありき。これ有名なる野村望東尼なり、望東尼は女勤王家の最も偉大なるもの、否其意氣勇俠六尺の壯士を凌ぐ一種の人傑なりしもの也。勤王の志士にして幕吏の追窮を受くるものあるや、尼は喜んで其山莊に之れを潜伏せしめ、多くの志士が秘密談合の所にあてつ、すなはち尼が風月を友とすべかりし彼山莊は宛然俊寛僧都が鹿谷山莊の趣をなしぬ。こゝに集合せる志士の重なるものを云へば、平野次郎あり、高杉晉作あり、僧月照あり、年齡六十を越えて而かも元氣壯年と比肩する尼は、誠に彼等にとりて此上なき母の如く、姉の如かりき。慶應の初年捕はれて姫島に幽せられ、屢々嚴問を蒙りて而かも語らず、一死報國の至誠を以て志士等の身をかばひぬ。次に示すは尼が幽囚中、一浪士に送るもの、我らはこれによつて尼が志操の勇ましく、凛として秋霜の如きを窺ふ一助たらむ。

けふは嚴敷しらべも御座候ひて、いろいろとひつすかしついたされ候も、おのれの身はもとよりみ國にさゝげ奉れることに侍れば、水火も更におそれ申さず、國家の御爲め人の爲めとて捨て果しいのちに侍れば、いかなる罪をもいとひ申さず、有志たちの罪は我身におはし給へ、彼のものどもはまさかの御用に立つべければ御助けありたしと、はきと答へ申候、

もの〻ふの重荷の罪を身一つに
　　おひてかろくもなるいのちかな

御安心下さるべく候、穴賢

誰れかこのけなげなる義烈の志を見て泣かざるものあらむ。而かも忘れ給ふ勿れ、當時尚幾多の小なる、より健氣にやさしき望東尼の存したりし事を。尼は其半生の歷史を以て自ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其身を志士の列に加へつ、されど當時尼と同じ心、同じ決意をもちて家庭の裏にかくれ、志士の爲には陰の象に添ふが如く、窃かに其業を助け、或はよく家庭を處し、子女を守りて消極的に後顧の患より免れしめしもの恐らく幾百千ありしならむ。我らは維新の大業に婦人の勢力の貢せし事かくの如く少ならざるを知り、幕末時代烈婦の一好典型を尼が一片の書簡中に見出さむと欲するもの也。

遊女の文

次に並出する三個は短文の好模範として余が愛誦措かざるもの、三個共にいやしき遊女の筆になる。而かも言外にあらはれたる綿々の戀情、及び其直裁にして惰氣なく、きびきびしくして歯切れよく、余韻の嫋々として絶ねざる誠に三誦するに堪へたり。思ふに斯間の技倆は我大和民族獨得の長所ならむ。願くば益々其長を發揮して、日常のはがき文等をも、かくの如く精錬無瑕の域に達せしめたきものに非ずや。

○貝原益軒へよする　　吉野

玉琴のひくてあまたの浮れ女に、まことありと心をつくす人々はあはれにも又をかし、すべて男ほどあさましきものはあらじと、我のみ思ふかも知れず、いにしへの佛刀自、靜なんぞ實なしといはんもやぼらし、寔あだしのゝ命もしらず、人もしらず、遊ばゞ遊べ、西へ東へ。

いくたりの目に鹽こぼす糸さくら

○久しく音信なき人に　　八千代

きのふもまち、けふもまち、只今こし一つ見えまゐらせ候さにもあらず、かしこ。

○某の殿へ參らする文　　高尾

夕しほの浪の上の御かへらせいかゞ候、やかたの御首尾つゝがなくおはしまし候や、御げんのまゝ忘れねばこそ、思ひ出さず候、かしこ、

君はいま駒がたあたりほとゝぎす

吉野、八千代は共に京の遊女、いづれも全盛をうたはれし美女なりき、而してまた兩人ながら賤業の身として志操頗る固く、加ふるに風流の道にも疎からざりし事はこれ等文字のよく示す所なり、高尾の事に至りてはよく世人の熟知する所、敢てこゝに言はず、某侯は卽ち仙臺侯たるべきや素より云ふ迄もなし。

「じやがたら文」

崎陽夜話に載せたる「じやがたら文」の一文は古來殘存せる女性の消息中最も珍奇なるものゝ一なるべし。こは寛永の末年、咬𠺕吧に放たれし一混血女が故郷への便なり。此女の父

は蘭人なりしかど、母方のよしみに養はれて此年漸う十四の春を迎へつ、なまじひに眉宇美しく、さかしき心ばへにて、手習の事、敷島の道にも中々にすぐれたりしこそ一入あはれなりしが、まだうら若き乙女の身をもて山河異なる夷の島に放たれ、朝暮東の空うちながめて小さき胸の炎を燃やしたりしこと如何許なりしぞ、此一文流石に遠き異郷の便りとて、縷々數千言頗るの長文字なり、從つてこゝに摘出するは實に其最少部分、以て全般の片影をも窺ふ事能はざるを恨む。

千はや振る神無月とやらうめしの嵐や、また宵の月の空もうちくもり、時雨とゝもにふる里を出し其日をかぎりとなし、又ふみも見じあし原の、浦路はるかにへだゝれど、かよふ心のおくれねば

　思ひやるやまとの道のはるけきも
　　夢にまぢかくこえぬ夜ぞなき

御ゆかしさのまゝ腰折かきつけまゐらせ候、前業とは申ながら、かゝる浮世にかひなき命ながらへ申さむよりは、たゞ世になき身となり候はゞ、いかにうれしからましな、たまたま花の世界に生れ來て此身となれる年月をかぞふれば　十年あまり四とせがほどゝこそ覺候に、かくうらめしき遠き夷の島にながされつゝ、きのふと思ひながらはや三とせの春も過、けふは卯月朔日、また東雲にあすは出船と人の聞ゆるに、せめて筆の跡してもと存、涙ながら硯にむかひ參らせ候、いまた夜ふかきほどにていとくらければ、ともし火すご〱とかゝげつゝ思ひ出る事ともかきつゝくるに、此文のうら山しくも故郷にかへるよと思へば、我ふみながら、ありしよりけにものかなしくて

　水ぐきのあとはなみたにかきくれて
　　むかしをいかに人の見ましや

（中略）たまたま古さとにて見たるに同じものとては月日の光ばかりこそ、そこもとにかわらす候故、ひるは日の出る方をながめ、夜は月の出る方を打ながめ袖のかはく間も御座なく候、

（中略）幾萬世の人が此世に生れ來る中に、我身いかなれば異國の人の子と生れ出たる事も前の世の報ひありてこそと思ひまゐらせ候、さらば今さら世をも人をもうらみ申まじき事にて御座候、（中略）去ながら此儘にて果てなんとは存申さず候、たゞ一度神や佛の御哀みにて日本へ歸るべしとこそ思ひまゐらせ候、たとへ三日を過し侍らで果まゐらせ候ともいさゝか苦しからず候、兎角すゑは日本の土となり候はんとぞんじまゐらせ候、（中略）御かたみの短尺、又をし鳥の羽など片時も身をはなし申さず持まゐらせ候、必ず〱來世にては是をしるしにてめぐり合申べく候、（中略）

おたつ樣へ申入候、何とて御文こま〱と遊しくだされずや、心もとなく存じまゐらせ候、かならず〱御船のかへさには御文委しく遊しくださるべし、誠に我身居申時と思召きくを御見捨くだされまじく候、必ず〱秋の頃は細々との御文まち入まゐらせ候、何ぞゐんしん申度候へども珍しき物も御座なく候まゝ、其義なく候、心ざし斗にたび一すぢ送り進まゐらせ候、もはや日本の花などはみな〱わすれ候てあらましおほへ候もの斗鍵まゐらせ候

若し人の笑ひ申候はゞ繪そら事と仰らるべく候、（中略）

我身事今迄は異國の衣裳一日もいたし申さず候、異國に流れ候とも何しにあら夷となれ申べしや、あら日本戀しや、ゆかしや、見たや〱〱。

此女後に洋人に嫁して子迄もうけたりしとかや、あはれ可憐の乙女が南海の異島に故山を想ふの情いぢらしくもまたあはれならずや、史の傳ふる所當時在長崎の混血兒にて父の南蠻人なるものは悉く海外に放たれたりと云ふ。されば或は子放たれて母止まり、或は父放れて子止まり、或は母放れて子留まり、其他夫婦相別れ、兄弟相離れ、姉妹袂を分つの悲劇各戸に起りぬ。じやがたら文の一文此間の消息を知らんが爲に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は好箇の史料、また心ある人はこの哀れなる異郷の少女に對して一掬同情の涙をそゝぎ給へかし。

以上掲げたる數個の消息いづれも眞率の氣言句に溢れて、優しき我國の女性を限りなくゆかしと思はしむるなり。此頃女流文筆の人漸く多くなりて、絢爛瀟洒の體人目を眩するもの少なからずと雖も、また浮華輕薄の氣象全文にあらはれて鼻持ちのならぬ言文一致體の消息文殊更に流行するやうなり。女學生の手紙を見て、つく〴〵言文一致體が厭になりぬと云ひし人ありき。綠雨の如き皮肉屋再び世に出でなばまた何とか評すべき。

夏の伯林

中村春雨

△蘇生じたやうな夏の伯林

米國でも紐育邊となると冬は酷寒で、折々一尺以上も雪の積る事がある、そしてそれを掃除する爲めに、五十萬弗の市費を支出するといふやうな記事が屢々新聞へも出た事がある幾萬といふ失職者は、そのお庇で俄かにパンに有附く口が出來るといふ次第であるが、夏となると亦打つて變つた酷暑で、日射病のために、一日の中に、七人も十人も斃れる、自分なども、午後の日盛りには、家の中に居るとムー〳〵して、眼先が眩みさうなので、毎日セントラル公園の綠陰清泉の畔へ、涼風を尋ねて讀書に行くのを日課として居た、「地獄の釜の底」といふ形容詞が強ち誇大でないやうな感のした事もあるが、それが大西洋一つ渡つて、歐洲、殊に獨逸となると、亦クルリと變つて來る。

無論、獨逸——自分の居た伯林も冬はナカ〳〵寒い、緯度の關係から見ると、正に樺太島の北半以上に位するといふか

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ら、その筈でもあろうが、折々紐育邊よりもも少し寒いやうな感がする、厚い外套を被て外出しても、二三町歩くのが辛くて、頬邊はヂカ／＼痛んで來る、息までが塞がりさうな氣がした事も屢々あるが、併し、その代りに夏は亦主極樂なもので、紐育邊の事を思ふと、何んだか嘘のやうに思はれる、余つ程今日は暑い日だと云つても、戸外を歩く中に背が少し汗ばんで來る位なもので、日本の七八月頃に比べても、まだ溫度が余程低い、イヤ、別に夏らしいといふ感もしないで、一夏中、過される樣な譯である。

一體、今の緯度の關係から、伯林邊りの氣候はあまり善くない方で、日本本土のやうに、春夏秋冬といふ四季の變遷が秩序立つてゐない。長い冬季と、短い夏季と、この二つの季節が常に循環して來るといつてもいゝ位なものである。無論、潮流の影響で、緯度の割には溫度も低くない方ではあるが、日本人のやうな氣候の誠に美はしい、麗明な空氣の中に育つた人間には、何うも天惠の薄い國土のやうに思はれるのも止むを得ぬ事だろう。而してその長い冬季は、先づ十月の始め頃から、翌年の四五月頃までつゞく。その間、空は始終灰色の雲、靄が押蔽さつて、太陽の色も黃蠟が燃れてゐるやうに見れる日が多い。おまけに、十二月から一月比にかけては例の酷寒で、日本では櫻の花が咲かうといふ四月比になつても伯林市中に雪の降る事は珍らしくない。五月になると、氣候は稍固まりかけて、風もさまで寒くないといふ位にはなるが併し外出する時に、ウッカリ外套は離せない、急に冷れ返つたりする事などがある。併し六月になると草木が一時に芽を吹出して、灰色の世界が、忽ち新緑の天地と化する、無論梅雨期などは無いから、天氣が定まつて來ると、世界が急に陽氣になる、今まで遊ぶにも戸内に蟄居がちで、タンツの會や、又はオペラ、芝居行にのみ凝つて怠屈な日を過してゐた人々は、蜂の巣を叩き壞したやうに、ワン／＼云ふ勢で、戸外へ突進する。夏の季節の伯林は、死者が蘇生したやうに、新たなる面目を以て活躍し始めるのである。

△ガーテンとカフエ

先づ市中ではチアー公園――一體に落葉樹が多いから、冬の季間は、樹木の葉が名殘なく落ち盡して、枯木の山のやうな、寂びれた、見惡い觀を呈してゐた處が、瞬く隙に、青々として、目の醒めるやうな美しい、夏らしい公園となつて來る。紅や、黃や、紫の、濃艶な色合をしたさま／＼な草花が、青絨緞を延べたやうな新鮮な芝生の上に一時に咲いて出る、綠樹の影が、深く沈默した泉水の底に映り込んで、林間の白い大理石の彫像が、ハツキリと際立つた色に冴え返つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見ゐる。土曜から日曜にかけては、斯の公園の、林の間、芝の中の、小徑を通行人がゾロ〳〵行列を作つて、白や、黒の衣服の波が絶ゐ間なく動いて行くのである。

而して、この大勢の行列は、主として公園の一角の、スプレー河の流れに臨んだ、多くのカフエの軒を列べた邊に向つて進んで行く、そのカフエも矢張り夏の季間を目的の營業で、カイザー、カフエだの、クラウン、プリンチエス、カフエだのと、隨分いかめしい名をつけてゐる。規模もナカ〳〵大きいものが多いが、そのカフエの中心となるものは、音樂臺で、茲で不斷、オケストラの音樂が奏されつゝある。中には二箇處位に、このオケストラの組があつて、奇裝をしたボヘミヤンだとか、ウンガルン邊から流れ渡つて來た音樂者のバンドを傭ひ込み、客の好奇心と歡樂の情とを兩つながら唆つてゐるカフエもある。客は、この音樂臺と、カフエ屋の地域内の、庭の中の、リンデン樹などの間々に据ゐた小い卓を圍み、一杯のビヤー、一杯のコーヒーに、音樂を聽きつゝ一時間、二時間の時を過してゐる。一家族連れ立つた客もある、夫婦連れもある。中には情人同士と見ゐるのもナカ〳〵多い。そして入り代り、立替り、卓や椅子やは殆んど隙間がなく、二組も三組も、一卓の周圍に割り込むといふ景氣である。而して彼等はオケストラの切れ目〳〵に、鳴りひゞくやうな喝采をやり、シガーを燻らし、又何や彼の雜談に耽つて、肩を叩いたり、笑ひ合つたり、いかにもノンキな自由さうな呼吸をしてゐる。この間に獨逸の國民生活が善く現れてゐるのである。

無論、スプレー河の流では、ボートを漕いでゐる男女も多い。公園のベンチの上には、甘い私語の聲も絶えない。今まで室内の濁つた空氣に喘いでゐた肺臟を、一時に、この野外の自由な呼吸に打展かうとする氣勢は至る處に充ち溢れてゐる、新舊派の、繪畫、彫刻の展覧會なども、この季節を目的に開かれる、夜間は動物園にオケストラを入れて、五十フエニー、即二十五錢の入場劵で盛んに客を呼んでゐる。

△湖水のほとり

併し伯林三百萬の市民の、夏の呼吸場は、唯一箇のチヤー公園丈で足りる譯は無い。勿論市中の公園も他に數ケ處はあるが、それ位では到底追附ない。否、夏の本場と云へば、寧ろ伯林の郊外の、大小幾多の湖水の畔がそれである。

一體、伯林附近に山の影らしいものは一つも見えぬ。ノッペラポーな大平野それも砂許りの、地味磽确といふやうな土地許りで、單調一律の感に堪へないのであるが、唯、その平野を蔽うて大森林が數哩に亘つてゐる、殊に赤松の林などが多く、その林の間に、いろ〳〵な形をした大小の湖水が幾つ

となく靜かな水を湛へてゐる、元來大古には、この邊まで海がつゞいてゐたのが、次第に埋沒して、こんな名殘を留めてゐるのではないかと、素人考にも考へられるやうな地勢になつてゐる。そしてこの森林と、湖水とがあつて、伯林市は始めて活を入れられてゐるやうに見ゐる。無趣味がちな都市が、このお庇陰で、風韻と詩趣とを帶びて來てゐる。例のカイザーの居城、ポツダムなども、實に、この湖水の畔に立つてゐる、そして今云つた如く、伯林幾百萬の市民は、汽車や自動車を利用して、夏の安息日を擧つて、この湖畔綠蔭の中に費しに來り、それを目的のカフヱが亦盛況を極めてゐるのである。この邊は東京市民などの一寸と想像に及ばぬ處である。

伯林の夏といへば、第一記憶に浮んで來るのは、ザットこんな事であろう。

磐手山、八ケ嶽登山記

△高山植物の採集▽

野口ゆか子

▽登山の準備と服裝

私の健康が野宿に堪へませんので、登山致すにしても何處へでも出かけるといふ譯にはまゐりません。それで多少道が開けて居つて寢處が得られるだけの便宜があればよいと云ふ條件で山の撰擇をするので御座います。それに申す迄もなく登山の唯一の目的たる高山植物が比較的澤山ある處を選ぶので御座います。準備と申しても大した事はなく、米、味噌、野菜、罐詰などを用意するだけです、旅行中一番閉口しますのは食物です、ホンの山奧の事ですから凡ての料理が滅法に鹹く、迚も喉に通りませんから一箸もつけずに置ますと、東京のお客樣は甘いものがお好だとあつて、今度は砂糖煮を食はせるといふ仕末ですから、斯ういふ處へ往つては罐詰が非常に役に立ちますから、出來るだけ多く持參するのであり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ます。盤手山に登りましたのが三十九年で、此時はスウィーデン式體操服を着、四十一年に八ヶ嶽に登りました時は、筒袖に袴といふ姿でした。袴はカシミヤ地で野袴に作りましたが、一日でボロ〳〵に切れて仕舞つた。それで見ても如何に歩行が困難であるかゞ分らふと思ひます。今年は出かける年の順序になつておりますけれど、如何も健康が思ふやうでありませんから、登山は止して箱根近處で採集しようと思つて居ります。次に登り度いと希望して居る處は青森の、アノ兵隊が凍死した事のある八甲田山であります。

▽絶壁を滑つて降る

八ヶ嶽は信濃と越後の境に聳えておる山で海拔九千尺の舊火山、淺間山の下の三代田から七里をガタ馬車で搖られて行くと、本澤溫泉といふのがあります、其處で一泊してから登山するのでありますが、頂上迄は四里程あります。此頂上及近處を採集して廻るのであります。盤手山は南部富士の稱があつて之も矢張り舊火山です、登山はいくらか樂で其日の中に頂上に達せられます、健脚の人なら日返りも出來ます。

兩山とも私には非常に怖い山に感ぜられました。盤手山では絶壁を金の鎖を手繰つて攀ぢ登る處もあります。登る時は左程に感じませんでも、降る時の危險は非常なもので四つ匍になつてやう〳〵降ります、又石室で烈しき夜嵐に出會ひ、天地も碎け散るかと思はれる暴風の中で一夜を明かして誠に恐ろしい目に遭ひました。

八ヶ嶽も本澤溫泉迄は道もありますが、夫れから上は危險な處か多く、而も意地が惡くこんな火山岩の絶壁の中腹に高山植物が多くあるものですから、採集には是非其處まで降りて行かねばならず、さりとて見下せば底も知らぬ谷合、立つて居つてさへ足が慄えて仕様がないのに、人夫は尻もちをついて儘、スヾウと滑り落ちて、中腹で岩に手をかけてうまい工合に立ち止まり、上を仰いで、大丈夫、私が此處に立つて居るから、降りて來いとすゝめますけれども、中々思ひ切れません。若しも岩角をつかめなかつたら、身は無限の深谷に落ちて二度と歸る事は出來まいと思れるのですから、實際容易な事ではありません。やう〳〵私は思ひ切つて、地べたに足を組んで坐つて、それなり、スヾーと降りて行きました。其時の心持は何とも云ひ様がありません。

▽雲の美

斯んな危險に膽を冷す事がありますが、山中に於ける自然現象の美しさは如何しても忘れられないので、中々登山はやめられません。八ヶ嶽の頂上で夕立に遭ひました時の景色の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

美しさ不思議さは登山の經驗のない人には殆んど想像もつかれぬ處であらふと思ひます。一體高山に登りますと雲の美といふ事が平地に居ります時よりも一層明かに見られますもので、八ケ嶽頂上の夕立後の雲の美は、全く地上のものとは思はれませんでした。何時とも知らず萬頃の白波が、枚を啣める百萬の軍勢の如く、粛々として、谷底から湧いて來るかと見ると、瞬時にして全山を包み身は薄沙で幾重にも蔽はれたかの樣、一寸先きも見ゑなくなるかと思へば、忽ちにして日本晴れに晴れ渡り、今迄の濃雲は遙かの彼方に横る峰々を包圍して居るなど、其形狀の多趣なる、色彩の對照の妙なる、變化の急激なる、美麗、莊嚴、恐怖、などの取り交せた感じに打たれて暫時は茫然と此身を忘れるのであります。

此時でした、晴れ渡つた空のあなたをさして、人夫が諏訪湖が見える、と申しますので、私も其指の方を見ましたけれど一向見ゑない、もつと上の方だとの注意で視線を高く上げますと、まア奇麗な！、周圍は白雲に包まれて、諏訪湖の水面のみが金色のお盆の樣に空に浮いてゐるではありませんか。世界は永久の靜寂に居り、松籟と青嵐とあつて之が眠を覺す許り、深々たる萬物の中に吾れ獨り立ちて自然の美を前にして恍惚たるの時、多年憧憬れつゝあつた日本アルプスの槍ケ嶽が翠色淡として聳立して居るを見得たる、實に何とも云へぬ愉快であります。

▽神の義と神の愛

高山植物は濶葉樹の喬木帶が過ぎると針葉樹、それから這松帶といふ順序になつて來ておりますが、這松が高山植物の魁をなして居るのであります、五葉の葉で地をはふ樣に密接して擴かつて、遠方からは一面の苔のやうに見ゑて奇麗なものであります。まだ此處まで往かない中に裾野の植物帶がありまして、之が又非常に美しいものであります。桔梗、女郎花、スヾラン、ウメバチサウ、シギンカラマツ、クルマユリ、シモツケ、ギボーシユ、アヤメなんど一面に咲き亂れて自然の花園を作つております。

磐手山にはコマクサが澤山あります、藥草ではありませんけれど、御嶽山では藥草だとして之を陰干にして賣つて居ります。葉はハナビシサウに似て綠青、花は富士ぼたんに似て、極めてさえたとき色で誠に可愛らしい。此外タカネスミレの深黄色の花が谷底に一杯に咲いて居りまして、累々たる火山岩に充ちた荒凉なる景色と誠に面白い對照をなして居ります。

八ケ嶽ではイワウメ、チヨウスケサウ、チシマキキヨウ、シコタンサウ、ムシトリスミレ、オヤマノエンドウ、ハクサ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ンイチゲ、ミヤマオダマキ、オサバグサ、イチヨウラン、ゴゼンタチバナ、ガンカウラン、コケモ、イワガヾミ、リンネサウなど、高山植物として第一の品位に居る植物で、下界では其一つでも甚だ倖いものが色彩の美を飾つて一面に咲いて居ります。欲しくないものを捨てましても尚ほ六十種の植物を採集しました。

私は其美に打たれる毎に思ふのでありますが、深山幽谷に來ると最も多く莊嚴の想に充され更に又恐怖の念に襲はれるのであります。峨々たる峰巒、荒涼たる火山岩、永久の靜寂の裡に、このかよわき身一つを置いた時に實際私は天地莊嚴の氣にハタと打れるのでありますが、而も此時眼を自ら立る地上に下して其處に實に美しき可愛らしき植物が、何の怖れ氣もなく爛漫として其姿を競つて居るのを見ますると、疲勞も恐怖を打ち忘れて仕舞ふ事が出來ます。あゝ何と云ふ不思議な、意味の

深い對照でありませうか、私は思ひます、崇嚴は神の義を顯はすものであつて、可憐なる花は實に神の愛を表はして居るものである、然らば何故に斯の如き可愛らしき花が之荒涼たる山奥に咲いてるでありませうか。人生の行路時に或は悲あり、嘆あり、一面から見ますと噴火山に於けるか如く荒涼たる有様があります、而も我々は神の義を求めて進まなければならぬ。疲れるのも出來、傷く者も出來てまゐります、之を慰め勵まし更に一層の勇氣を以て奮鬪を繼續せしむるものは、この山奥の花であります。神の愛であります。

▽造花の簪と鼈甲の櫛

私が高山植物に熱中して居るので高山植物は珍的だらふが併し美的ではあるまいと云ふ人がありました。私は之に答へて、高山植物は珍的プラス美的だと云つて笑つた事でありましたが實際この高山植物は日本趣味の典型であらふと思はれます。

西洋の草花なども成程美しいのに相違ない、チユーリツプとかヒヤシンスなどゝ高山植物の花とを比較して見ますと、造花の簪一輪さして居るのと、水も滴らむ許りの鼈甲の櫛一枚さして居る程の差違で、品位の程度は迚も比較にはなりません。前者はパツとして一時は人目を奪ひますが、何となく浮薄な處があつて、見て居る中に倦きて仕舞ひますが、高山植物の花の方は、瀟洒として滋味があり、而も一味の雅風がありますので、何時までも床しい想を起させるのであります。野にある自然の花は造らず飾らぬけれども、捨て難き詩趣に富んで居るもので、世人が狂ひ咲と云つて朝顔などのひねくれた畸形の花を愛玩して居るのは、花の自然といふ事を知らぬ低い趣味であらふと思ひます、花の隱逸なものとして賞せられて居る菊なども、變種に變種を重ねて、其奇なるをのみ造つてる培養家が多いやうでありますが、私は之を菊の獄門と呼んでおります。大輪の花が首の處を小竹か何かで結へられておる處は、洒し首と云つてよからふと思ひます。同じ菊の中でも龍腦菊などになると白色で一重ですが其風姿と云ひ雅味といひ、どれだけ勝れて居るか分りません。

此高山植物と西洋花とを一つ庭に植ゑましては、如何しても調和がされないのであります、色の配合をいろ〳〵にしてみたり、あゝかこうかとやつて見ましても洋服で足駄ばきといふ調子で終に調和しないので、築山一つ越した蔭に西洋花を移しました、純粹な日本趣味と西洋趣味との衝突とでも云ひますか、此兩者の間には截然たる不一致が認められるやうであります。

▽お山には罪惡なし

斯る高山に登りますと心が一變して如何なる者でも信心深い敬虔な氣になるものであります、莊嚴なる山靈の氣に打たれて自然眞面目になるのでありませう。磐手山では路傍の木の枝に多くの荷物がブラ下つてあるを見ました、之はお山詣りの人々が各自の荷物を返り迄そこらに掛けて往つたのでした。奪られないかしらと案内者に聞きますと、お山で惡いことをすると神罰があたるから誰れも惡い事をする者がないとの話でした。九合目の石室で一泊した事でしたが、其小舍は不完全極まるもので石垣で三方を圍繞したのでやう〳〵雨と風を凌げる許り、夜通し松の枯れ枝を焼いて一夜を明かすと云つた處です、此處の宿賃が一泊五錢でございます、尤も食料は各自が持つて參るのであります、それで疊でも敷いて少しは樂に寐られる位の設備をする爲めに宿泊料を高く取つたらいゝではないかと言ひますと、山番は飛んでもないと云ふ顔をして、そんな事をすれば神樣の罰で石垣が崩れますと云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何といふ質朴な美しい信仰で御座いませうか、此處では華族様でも土百姓でも悉く五錢で世が送れる、萬事が平等である、金錢も學問も權威も何にも通用しません、凡が天眞なる赤裸々の人間として存在し得る許りであります。下界では爭奪陷擠、詐僞、讒謗あらゆる惡德が行はれ、人は皆名利を獲んとして狂奔しつゝありますのに、僅か海拔七千尺の此の磐手山の絶頂には斯の如き平和が味へるとは何と愉快な事ではありませんか。

從つて又登山者同志の交際も非常に親密で各自同情し合ふといふ風であります。八ケ嶽に登りました時折あしくも水が涸れて非常に困難した事がありました、其時不圖路傍を見ますと、白樺の皮を削つて「此左に清水あり」と青い鉛筆で書きしるしてありました、何れ吾々の前に登山した人の筆の跡でせうか、其時のうれしさは譬ひ様もありませんでした。清水を見出し得たといふ嬉しさは勿論でありますが、後から登つてくる人の困難を察して書いたと思ひますと、一寸した勞力ではありますが中々に難有い事であります。(談話筆記)

「シヤムの」避暑

安井哲

△春の方が却つて署い

避暑といふ事が「暑い季節、比較的涼い場處に轉地する」といふ意味でありますならば、熱帶國には避暑といふ事はない筈であります。何故ならば、一年中暑う御座いますから、(シヤムの如きは十二月一月あたりは比較的涼しくありますが)年中避暑せねばならず、又他國に行けば格別、さもなくて本國では何處に行つても、大抵は同様に暑くなりますので假令轉地しても、避暑の目的を達しません。併ながら學校の長い休暇を利用して、「バンコック」以外の地を旅行もして見たし、又轉地もして變化ある生活に入つて見たいといふので同國滯在中二人の友人と共に、シーラチヤと云ふ海岸に轉地致した事があります。此土地は誠に閑靜な場處で、森林が多く、國王陛下の前皇后様で、現在の皇后陛下の御姉君に當

らせらるゝ御方の御殿と、同陛下の御設立に係る病院とがあります。海岸である爲めに涼くあるので、西洋人など多く此處に遊びに參ります。私共は一般に暑いのは夏のみであると心得て居ますが、シャムでは春の方が却つて暑いのであります。其故此國での避暑は八月頃でなくて、四月頃であります。之れは雨期に入る前であるのと、當國の新年に當るのと、且三月の學年末後の休みと、此三つを一處にして轉地の時には最都合がよいのであります。

一體避暑や轉地は病人でない限りは、贅澤な事とありますが、シャムでは殊にそうであります。何故ならば此國にはバンコックを除くの外、殆旅館がないと申してもよい位で、外國人、殊に婦人には、誠に不便であります。其故此轉地にも、布團、蚊帳、毛布類は勿論、料理用の必要具も、料理人も召使も、連れて行かねばならず、又場處に依つては或種の食料品をも準備せねばなりませんから、費用は兎に角中々其實行は面倒であります。殊に此シーラチャには船で參るのでありますが、海軍省の御用船にても便乘を許さるれば格別、さもなくて汽船で參りますと、一日もかゝらぬのに、賃銀四十五六圓も拂はねばなりませんから、中々容易に轉地は企てられません。

▽筏で魚をすくひ上げる

私共は別に旅館もないので、(西洋人の爲めには英國人夫婦が別莊的のものを有つて居ますが、僅に四五組位の客しか容れられません)新築の病室に參る事になりました。此院長は日本の方で、妻子を吾國に殘して、誰も話相手のない此土地に、御一人で淋しい御生活をなすつて居られたのであります。此病院は海岸から僅に隔つた海上に建てられてありまして、普通の病室の外、二三軒の離れ家があつて、此處にも病人を容れるのであります。私共の借りましたのは、最新の最も陸に近い家で、一室は私共三人が占領し、其隣は同僚のシャムの女教師母子と老母、其隣は召使二人の室でありました。家は洋風であります故、夜は板の間に莚を敷いて其上に布團を敷きました。隨分未開風の生活狀態でありましたが、誠に氣樂で樂しくありました。

面白い事は潮がさして參りますと、床下の支柱は水に浸され、何億萬の幼魚が群をなして、室の下を游いで來ますので其面白さと申したらば譬へ樣が御座いません。別に釣道具も有ちませんので、有り合せの笊に麻糸を附け、其中に石を入れて沈ませながら、是等の魚をすくひ上げますと、容易に入つて來る面白さ、併し食用にもなりませんから、其まゝ海中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に投げ込んでは、又新にすくひ上げて娯みと致しました。此他此海中で立派な大鯛や、鰤などが捕へらるゝ事もあります又森林中には多くの小鳥が居まして、男子方には獵の御樂しみもあります。

△月若し心あらば

此近傍の森林中には、曾て陸軍大臣をなされた方の御邸がありまして、其近傍の官林から材木を伐り出す特權を得られて居られますので、私共は或日本の方の紹介に依つて、其森林中にある珍しい大木を見にまゐりました。野鷄が彼方此方に疾走する有様は誠に珍しく、其他見馴れぬ鳥や、大きな蟻の塔や、珍しい植物なども澤山に有りました。毒蛇なども居るとの事で、時には猛獸の出現した事もあるそうであります、「ジャングル」生活はさぞ興味のある者であらうと想像されました。全く人間世界を離れて、下等動物の群に入り、彼等の珍しい生活狀態を研究したならば、どんなに面白からうと、「ジャングル、ブック」の事を思ひ出して居ました。

何れの國でも田舍の人は純朴で、籠を負ふた田舍の人に、山路で出會ひますと、親しげに挨拶をして通り過ぎますが、恰も私共が外國人である事を氣附かぬ風であります。實に愛すべきは田舍の人であります。

氣候の暑いために、早朝か夕方でなければ外出しても苦しいので、日中は大抵家の中で、何かの仕事か書見でも致して樂しんで居ましたが、入浴後涼しい夕風に吹かれて、長い棧橋を散歩する心持は、實に何とも申せません。殊に明月の夜僅に三人の同胞が、人なき棧橋の上に、月を媒として遙に故郷を忍ぶ時の心情、「月若し心あらば」と歎じた事は、今尚目に見える樣であります。暑さも、不便も、淋しさも、異人種雜居も、苦しさも、悲しさも、樂しさも、之皆一生中有益な經驗でありました。之れに依つて、足る事を知り、同情も出來、忍耐力も養はれ、且又忠實に運命に服從する覺悟も出來ました。吾等は單に贅澤な生活のみを續けやうと希望せず、變化のある生活を試みて、自分と異る境遇にある人々に接し時には不便な苦しい生活をも試みて、不足のない平生の生活を感謝するのは、誠に好ましい事であります。

星の名をよく知る人や門涼み　子規

蚊火たいて寐るが嬉き草枕　青々

靈性の滿足

宮川經輝

人間は生長發展す可く作られたものである。故に生長發展せなければ滿足しない。而して生長發展の順序を見るに、幼い時最も能く生長するものは身體である。此間迄小供だと思つたものが、暫く見ぬ内に、立派な青年となつて居る。けれども年を取ると其發達が一向目につかぬ。その次に生長するものは智慧である。年若い中は寢ても醒めても、智慧を滿足させやうと苦心する。其次は德性である。人は年取ると道德家になると云ふが、成る程、年を取るに餘り馬鹿な事をしなくなる。最後に發達するものは靈性である。此は一向に發達せない人もある。けれども眞に尊敬せらるゝのは前の三つよりも此の靈が發達した人である。故に時代〳〵滿足するものが違ふ。小供を捕へて無理やりに、讀まなくてはいかん。考へるがよい。と押し込める樣に勉強をさせたら、終に肺病とか腦病とかになつて了ふ。小供の時は何でも野外にでもやつて騷ぐだけ騷がせるがいゝ。私共なども飮食するよりも遊の好きな時代があつた。私の友人に某と云ふ者があつて、十五歲迄野飼の馬の如くあばれて居た。所が其十五の年は明治維新となり、彼も最早物質ばかりで滿足せなくなつた。そこで漢學の塾に入つて大學から習ひ初めた。然るに一年の間に學庸論孟より終に五經左傳に及んだ。非常の發達である。私は六歲から寺子屋に行つて十三位迄に史紀左傳を讀んだのに、友は僅一年で其處迄漕ぎつけた。これは何を意味するか。今迄打ち棄てられたのが智慧、智慧と云ふ渴望となつて表はれたのである。將來如何になるかと思ふたが、不幸短命にして死んだ。

智識欲の次ぎには德で滿足しさうなものだが、然うばかりは行かぬ。金が欲しくなる。智慧學問を得たいと云ふ。其奥には金と云ふ考がある。愈學校を出ると、金が無ければならぬ、と云ふので二十五圓、五十圓、百圓と段々欲を増して來る。遂には月給では面白くない。南米へ行かうか、それともアラスカへでも行かうか、と云ふ事になる。腦中盡く金である。千圓を得た。萬圓を得た。それで非常に滿足するかと云ふと

然うでない。見渡す限り、金満家は金で満足して居らぬ。骨董を集める、書畫に凝る、やはり満足せぬ。ボストンの某は庭内に美術館を作り。大坂の藤田某は其坐敷を天下の逸品で埋めて居ると云ふけれども、彼等に満足はない。カーネギーの如きは初から此等のものが満足せぬ事を知つたものか。能く財を散じた。米國の到所るカーネギー圖書館の無い所はない。これは骨董よりも善い。けれども満足せぬ事は同じである。

又功名を得たいと望む人もある。日本でも、外國でも、世界の彼方此方に事業、事業と云ふ聲が聞ゆる。何か事業をやらうと云ふ人は腦中盡く事業である。何等他の事を思はぬ。ルーズベルトの如きもそれかと思ふ。大學を出るや、ランチに行つて牧畜をやる。身體がよくなると議員になり、巡査部長になり、更に米西戰爭の時には士官となり。それが終ると、荒馬の兵を作つてサンチヤーゴに戰ひ、轉じて副統領となり、大統領となる迄、彼の成す所は事業である。けれども事業以上のものを求めて居る。功成り、名遂げた丈で満足せぬ。學者は寢ても、覺ても、研究である。プラトンはイデアとかライプニッツは何とか色々やる。けれども果して満足して居るだらふか。スペンサーの如きは進化論の泰斗である。けれども最後には天地には何があるか分らぬと云ふたと云ふ事である。知らう知らうとして知れぬ。其寂しい〳〵生涯を送つたと云ふ。して見ると私共が大満足を得たいと云ふ希望は無理ではない。さらば大満足は何處に求むるか。何が大満足を與ふるか。幸にして學校も出、人からも尊敬せらるゝに至つた時に、我心を探ぐると満足が有るかと云ふと、善い事があればあるだけ、樂しい事が有れば有る丈、何とも云ひ知れぬ寂しさがある。之に反して、逆境に居て成績が善ければ中傷される。金が集つたかと思ふと、不景氣で失敗する。小供が大學にでも進む時に此世を去る。何か、如斯欺人生の悲慘に遭遇した時に、あはれ憂世とはこれかと思ふ時に、悲しくて堪られぬ。詩の四十二篇にあゝ神よ、鹿の溪水をしたひ喘ぐがごとく、わが靈魂はな

んぢをしたひあへぐなり。我がたましひは渇けるごとく、神をしたふ。活ける神をぞしたふ。とあるが、これ即ち人間の心の底にある智慧や、意見や、情よりも、更に深き靈性が燃ゐ上らんとして、其處に非常な渇仰心を起して來た所を云ひ現はしたものではあるまいか。私は近頃大發明をやつたと云ふ譯ではないが、基督が「人若し生命を失はゞ世界を得とも何の益あらんや」と云はれたあの雄大高遠なる識見を思ふて居る。心理學と云ふ心理學は皆人間の魂を積極的の方面から、否光明の方面から見ると、高尚なもの、偉大なものとだと云ふ事を叫んで居る。此叫には私共の心が云ひ現はされて居る。人の魂が此世だけのものとすると、餘り出來過ぎて居る。五十年、六十年に止るものなら、神が作りそこねたのである。凡てが立派とは云へぬが、磨き上げた、立派な魂は七十にして則を越ゐず。其點迄行く。又我が事成れりと叫んだ基督は三十三年の間研かれて神の全きが如く全くなられたのである。それを思ふと獨り基督孔子ばかりでない。我々も事業ばかりで滿足せぬ金ばかりで滿足せぬ神々しい理想がある。

　然らば靈性はどうして滿足するか。植木も打ち棄てゝ顧みなければ、緑の色は增さない。我々は靈を表はし靈を研がなければならぬ。研いて天の神に結ぶ外はない。或は小我が大我に結ぶとも、或は我が靈が天地宇宙の靈に結ぶとも、云はるゝであらう。けれども基督はそれで滿足せぬ。何と云はれたか。天の父よ。此聲である。ヨルダンの洗禮、ヘルモンの變貌、基督は、天の愛子なりと云ふ自覺に深く入られた。其基督もゲッセマネの園に祈り給ふ時には殆んど苦痛の限りである。けれども我事成れり。最後の言はこれである。愛子の自覺はキリストをして光あらしめた。御互凡人も朝に夕に基督の輝ける人格を慕ふて、基督の思が我が思となり、基督の行動が我が行動となり、基督の情が我が情となる樣、努めねばならぬ。それが基督敎である、それ迄になつたら怎うか。アシシのフランシスは情を慕ひ、フイリプスブルクスは男らしい所を慕つた。

　或は妻に別れ、或は子に別れ、悲しき事は一ならずある。けれども、天の父が我と共に在ます。飢に泣く子は父養ひ給ふと信ずる時には唯寂しいばかりではない、ヘンリーワードビーチャーが姦淫の寃罪を蒙つて、六年の間獄窓にあつた時、三百の牧師は之を引き出して、辨解を求めた。其時彼は輝ける顔に笑みを湛ゐて、我が如斯事をせぬ事を知る者は我が神と母であると無邪氣に云ふた。於此三百の牧師は如斯尊き人が罪を犯す筈はないと云つて自ら恥ぢたと云ふ。而して彼はこれより浴みする者の如く次第に輝いたと云ふ。

人生五十七十は古來稀なりと云ふ。然るに私共は十七にし

て基督に志し、寢ても、覺めても、忘れぬのは信仰の修養である。けれどもどれ程の事も出來ぬ。時には堪へ難い事に堪へ忍び難い事に忍んだ。けれども若し此世だけで終るなら、修養をした人程馬鹿はない。立ち上らんとすれば、突き落され。起きんとすれば倒され。樣々の苦勞をして、心志を養ふものが、唯此世だけで終るなら果敢ない。天は如斯事はない。天の父は如斯し給ふ筈はない。我々の魂は永久である。此性は十有五して倒れても愈研かれ、愈輝く。天の父の如く研かざれば止まない。然う見ると光明がある。金の中にあつても、研究室の中にあつても、紅塵萬丈の中にあつても、光が出て來る。若し諸君の中未だ祈らぬものがあるなら、祈り給へ。說敎を聞き給へ。それも嫌ならば聖書を携へて、廣く淸い野に、神を味はひ給へ。さすれば諸君の仕事は自ら聖化さるゝかくして、各が如何なる時にも、靈性の修養に努むるなら、此世限りではない。永久である。して見れば靈性の滿足程、大滿足はない。これがあれば如何なる時にも死ぬる筈はない。我々は基督敎の魂に捕はれたい。事業に失敗しても罪惡の中におつても、一つやり直して、又々やると云ふ力が欲しい。水の上にあるキルクの如く壓迫する手が取れると、沈んだものが、又上る樣な力が欲しい。さすれば金貰けが出來なくとも、靈性の凛たる力がある。失敗すれば失敗する丈、英氣を捲き起す力が出る、願くば終始屈托する事なく、天の父を學ぶ事に依つて、永久性を味ふ事に一層力を入れ。此世は波の打つが如しと見るのがよいと思ふ。

消夏の方法に對する諸先輩の開書

本社は本號を夏期號として大方の諸姉に供するに當り左の諸問に對する回答を先輩諸氏に求めて、御參考の料に供する事と致しました、卽ち

(一)貴下が青年子女に奬めらるゝ夏期に於ける
(イ)最も適當なる仕事
(ロ)及び最も愉快なる娛樂
(ハ)及び避暑地
(二)夏期休業中に於ける少年少女の讀み物について、

(以下到着順)

日本女子大學講師　村田勤氏

一、(イ)故鄕にかへりて家事を手傳ひ田園生活をなす事を最上と思ふ。
(ロ)上述の生活をなし得る場合には愉快其の中にあり、その外に樂娛を求めんか、游泳、魚釣、舟遊等あるべし。碁將棊、トランプの如きは有害なり
(ハ)住處境遇を變更するを得ば足れり。強いて海岸

温泉場等に赴くに及ばず、往くにしても一二週間で澤山也。

二、旅行記、歷史、傳記尤もよし。幼少年には想像又は冒險を主としたるもの面白からむ。

成女高等女學校長 宮田脩氏

一、(イ)(a)家事實習。特に之を學生諸子にすゝむ。
(b)讀書。教科書以外のものにて精神知識の修養に資すべきもの。
(ロ)旅行。特に登山などを試みる事をすゝむ。
(ハ)函嶺芦の湖畔・都人士の雜閙せざる房總海岸地等然るべしや。

二、(a)自然現象を通俗的に文學的に説明せる書類。
(b)歷史地理を物語風に書きたるもの。

女子高等師範學校教授 下田次郎氏

一、(イ)早起露を蹈んでの散步、庭掃き水撒き、家事の手傳讀書音樂
(ロ)旅行、登山、海水浴、讀書
(ハ)若いものは避暑に及ばず。

二、英語のやりかけの者は英語を勉强せよ。讀み物は福翁自傳、福翁百話、小公子、未だ見ぬ親、鳩翁道話、などよからむ一々擧げ難し、夏休みにはウント讀めるもの也。

櫻井女塾長 櫻井ちか子氏

(一)(イ)衣服の修繕・洗張、仕立直し、家事の手傳等
(ロ)水泳、多摩川鮎漁、
(ハ)相州葉山、房總地方・相州三浦三崎

二、傳記物

共立女學校講師 赤星仙太氏

一、(イ)(ロ)仕事には趣味を有す、勞作なき娛樂には害あり。特に靑年子女と夏期休業と云ふ聲掛りに鑑み、仕事と娛樂とを併せて御答すべし。
牽牛花其他の栽培、他所行ならず御稽古あらぬ裁方縫ひ方、及び耕方、家事實習、淸き會話及建德を目的とせる朋友相互の往來、肩の凝らぬ程なる短詩又は物語の飜譯等。
(ハ)無經驗あれば今更未踏査の固有名詞を並べ立つまじ。歸省して父母の膝下に許り籠居せんよりは、親戚故知を訪問すべし。避暑がなしたければ田舍の親類にでも行け、偶には心合へる友と日歸りの遊山濱遊びも宜からん家族の同伴なき避暑地の宿泊は遠慮すべし。

二、戲曲としての約百記、物語としての以士帖書、叙情文學としての雅歌詩篇及哀歌、未來記文學としての但以理書と默示錄・論文としての希伯來書其他(信德を養ふ爲めに聖書を讀む事は云はずもがな)小公子。未だ見ぬ親、少年侖正、鼎沸還曩、人生と文學、自然と人生其他、以上は唯思出でたる儘姑らく洋書を省く。

日本女子大學校長 成瀨仁藏氏

一、(イ)地方により其地に關係ある手工等を實習せしめ、若くは家事の實習を手傳はしめる中にも、つとめて日常學科の實地應用を經驗せしむる事。
(ロ)資力に餘裕あるものは旅行も宜しく水泳登山も可なり、女子には園藝、音樂など適當ならむか。
(ハ)療養の爲ならば格別なれども、風儀上教育上當今にては海濱よりは山間の方宜しからん、槪して親許に歸省せしむるを宜しと思はる。

二、簡易なる動植物、鑛物、地質等の書、平易なる歷史、傳記、其他穩健なるお伽噺神話等

女子商業學校監事 嘉悅孝子氏

一、(イ)あまり精神をつかはぬ勞動、たとへば朝晚の掃除とか割烹とか。男子ならば水泳、擊劍、柔道等
(ロ)かるたの如きもの又はうたひ等よろしからん
(ハ)北條邊か若くは山の中(秩父山中等)

二、歷史譚、小公子

女子英學塾講師 川島芳子氏

過日御尋ねの件は男女に區別してお答申すの必要を認め申候

一、(イ)男子は豫め日課表を作り、自ら工夫して學課の應用をなし、其種類及材料等の覺書を作り、休暇後教師に示して批評を乞ふ事、毎日一定の時間を設け家の職業を手傳はしむる事。
女子も日課表を作り裁縫、及張物を稽古せしむる事、毎日の食事の調理に母の手助をなし、猶ほ一週幾度か自ら工夫して料理をなし、其種類及獻立、材料の分量又は代價等を記入したる覺書を作り休暇後教師に示して批評を乞ふ事男子と同樣。
(ロ)水泳、園藝到る處の景色などスケッチをなして一のアルバムを作らしめ、且つ到る處の花卉草木

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

などを集め、之もアルバムさなし其の場處時日丼に、當時起りし感など附記せしむる事、一週一度は家族打ち揃ひて夕食を戸外にてなし大人小供打さけて笑ひ興ずる事（あながちに遠方に行く必要なし、裏の山、庭前の涼台等手近き處を撰びて食物も其折の出來合のものを携ふる事。）
（ハ）山間の日當よき處にして水泳をなし得る湖のある處、但し子女の身體の健康の度合によりて考ふ可き事。

二、古今有名なる人物の傳記物語（東西の別なし）及び常識の發達を助くる種類のもの、其一方法さして健全なる物語、調高き小說などよろしからむ　然れども少年少女の性質によりて或は氣を靜に或は興奮せしむる種類を撰擇するを要す。

附言、少年少女は決心の緩み易きもの故に父兄母姉は彼等に深き同情を持ち、自ら率先して奬勵なし、其決心を履行せしむる事最も肝要也。

慶應大學講師　向軍次氏

一、（イ）午前は何事をなしても差支なし、午後は暑氣甚だしい間は成る可く腦を働かせないで濟むやうな機械的の業務例へば習字編物の類。
（ロ）音樂、クロコノール、將棊の類
（ハ）私共の樣な貧乏な者は避暑杯云ふ樣な贅澤な事をなすべきでないさ思ひます。全體日本人は日常の生活迄山師的で困ります、併し今年は出來るなら避暑さは如何なるものかさ云ふ教育も子供に與へて見たいさ思ひます。

二、少年少女の讀物は學校教育以外には常に趣味の方面を選ぶが至當さ思ひます。併した伽話類のよい讀物が少いので困ります、成人の讀む可き小說を子供に讀ます父兄も間違つて居ますが、成人を目當に書いた小說を靑年子女に有害ださて發賣禁止にする官署も時代後れです。宗教家は宗教以外社會教育の方面に向つて大に著述をなす必要があります。

女子學院長　矢島揖子氏

一、（イ）夏期の仕事さしては家事經濟の習得、衣服の洗濯、而して水の使用一人一日の最幾何を要するやの研究。
（ロ）朝夕の散步等にして自然に接する事。
（ハ）願くは閑靜なる地を撰び度きもの也

二、休業中は成可く平素の日科さ離れたるものを、撰み聖書の他は專ら偉人傳記に類するもの、丼に府勢要覽の如き法律に關するものを傍らに置き時に研究するは最も必要なるべし（之は靑年子女に望むのみならず自らの心懸けを記するものあり）

醫學博士弘田長氏夫人　弘田増子氏

一、（イ）別に特別にありません
（ロ）草花培養、湯治或は音樂です。
（ハ）涼風淸水に富める山間の滯留。

二、夏期の讀物さして特別のものはありません。家庭及精神修養に利益ある書物です然し之は冬でもいつでも必要に感じます故特に夏のものさしてはありません。

成女高等女學校講師　吉村里子氏

一、（イ）割烹、洗濯、のりはり其他之に類似したる仕事は凡て適當、學校に通ふ人々は平生は閑がないもの）
（ロ）自然さ親しましめたく
（ハ）健康の子女なら避暑はぜいたくいろまじく強いて行くなら山。

二、傳記物、

高梁順正中學校長　伊吹岩五郎氏

一、（イ）家事の補助、園藝、
（ロ）登山及び共同的遊戲及作業
（ハ）田舍に於ては避暑地さしては海濱をよしさするも（山地よりするものは）迚も實行出來得ず、此邊にては鄕里は一の避暑地なり

二、雜誌などよりは自然さ人生さに關する處の解し易き書物、宗派的ならざる宗敎上の著書、修養上に資す可き面白き傳記類。

長野縣上田高等女學校教諭　齋藤きね子氏

一、（イ）夏休み中の仕事さして特に女子にすゝめたきものに、衣類の整理さ家屋の淸潔、及び近きわたりの山登りに御座候淸水湧き出づる井水の下に衣服の洗濯張物などはトント暑さを忘るゝのみならず、美しく洗ひたされ新らしう張りかへられたる線絹袷さては夏衣などのはや夏の間に手まはしよく整ひたるさきの心地は、暑い〳〵さ云うて一日ぶら〳〵致す人のさても計り知られぬ愉快に御座候。

また夏はいづれの時よりも淸潔を要するさきに候

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

へば、炎日中天にかゝりて針もつ手もたゆく、好める書物も心にぶる頃、室内の掃除、據側廊下畫處の布拭、庭の水撒きなどは暑さを忘れ睡りをさましむるものさ存候。

平常學校にありて家事を脅るいさまなかりしもの殊に不完全なる寄宿舍にありては家事にたづさはる時なければ、夏休みに於てこれ等の仕事をなすは、家事の一部の實習さしまた清潔其習慣の養ふ事を得、かつ如何なる境遇の人にもなし得る仕事さ存候。

その他小高き裏山の大樹茂り合ふ木かげに傳記物または精神修養に關する書物など讀み、或は語り合ふなどはたのしき一の仕事さ存じ候、なほ適當の指導者の附添へられなば一層の効果ある事さ存じ候。

尙同行者その他の事情ゆるすならば、男子さ同じく高山に登る事をすゝめたり候。信州の如く四方山もて圍まるゝ山國にありては、海水浴などより登山の方最も適當且つ有益の仕事さ存じられ候。暑い寒いは程度問題にして、暑いくさて涼しき處へ逃るれば、やがてはそこも暑さに堪へざる事さ存候。それよりは積極的に暑さ戰つた後の方、消極的に暑を避けるそれよりも、遙かに涼しさを感ずる事さ存候、登山などは瀧なす汗に衣をうるほし、時には絕壁をよぢ登る事もありて、足もしどろにたゆくなり行きて、中々くるしきにせめらるゝ事も候へども、いよく目的地に達し、峻嶺の淸氣を滿身にあびたるさきは心の底の底までも洗ひ流されたる心地いたし候。又いま迄摺鉢底に吸々さしてあせりしものも一度頂上に至りては眼界たちまち開らけ夏尙ほ雪を頂く日本小アルプスの眼前に横りたるなさ如何なる感慨に滿つる事に存候はん、また之によりて幾多の教訓に接する事さ存候。さにかく未來有望なる青年の子女が避暑に海水浴または温泉にさあつさを避けるよりも、勇氣を出して勞力を費し暑を追ひ拂ふなどは身體の健康をます上に又精神の修養上取るべき適當の仕事さ存じ候。

(ロ)親しく祖父母兩親に接し夕食後祖先物語さ母の懺悔談などは幼きさきより幾度か繰込さるゝ事に候も、度かさなる每に、あはれささ尊さを增し、暑さも蚊の苦しさも忘るゝ事これあり候。

(ハ)諏訪の湖、輕井澤、天龍の河畔

二、まだ見ぬ親、小公子、渡邊崋山、二宮尊德、イソップ物語(上田萬年氏譯)近江聖人、女子のつさめ、卑近なる動植物につきて面白く記されたる書物（常に望み居り候へども思はしきもの見當らず候まゝ書名を書き候）

基督教世界主筆　加藤直士氏

一、(イ)青年子女（たもに暑中休暇で歸つて來た男女學生さ見て）の夏期の仕事は家業の實習、兩親の手助け、幼弟妹の世話、畑なり庭なりの手入れ、親戚舊知等さ交情を溫める事などなりさ思ふ、今日の學生青年の通弊は鄕思の念の缺乏より遂に家を忘るゝにあるが如し。

(ロ)釣魚・博物採集、寫生等凡て自然さ仲善しになる事は尤も愉快なる娯樂なるべし。

(ハ)避暑地撰定の原則は餘り人の行かぬ處に行くにあり海の子は山に行け、山の兒は海に行け。但し小生は自分の稽齋が一番好きな避暑地なり。

二、割合に少年文學の發達せる今日坊ちやん孃さんの方がよく御存じの筈です。

新刊紹介

◉怪談●●

小泉八雲氏著
高濱長江氏譯
すみや書店發行　定價金七拾五錢

ラフカデオ・ハーン氏の著を長江氏が雄麗なる筆もて譯出せられたるもの。「名は怪談さ云ふけれども、實質は必ずしも然うばかりではない。假りに怪談さ見做すべきものゝ中にも、吾邦の地方に散逸してゐた史外の史實があつたり、一種の傳奇的小說さ見做さる可きものがある」。耳なし法一物語以下十九の小品が載せてある。嘗つて本誌に掲載せられたる文も二三收めてある。本誌讀者諸姉さは已におなじみの長江氏の筆なれば、今更改めて吹聴するまでもなし。綠陰のほさり一本を携へ給はゞ最も絕好の侶伴であらふ。製本體裁頗美挿畫もある。

◉婦人の理想●●●●

安部磯雄氏著
北文館發行　定價金壹圓貳拾錢

嘗に理想の人を著はして多大の教訓を讀書界に與へられたる氏は此度又「婦人の理想」を著して、幾多の適切なる事例を引いて懇切に婦人の本領を論ぜられた。社會の進步さ共に婦人の地位も思想も急激に變化しつゝある今日にありて氏の此著は實に一個の燈明臺である、現代の婦人は是非一本を座右に供へて人生行路の羅針盤さすべきである。釘裝亦頗る美麗である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

投書欄

哀れなる少女

野菊

色々御世話樣になりまして、有難うムいましたと云つて歸つて行く少女の後姿を見送つた私は、哀れな彼の女の越し方行末を思つて、我知らず熱き涙しぐまるゝのでムいました。彼の女は年幼くして、慈母に逝かれ、繼しい母の手に育てられました。世に母なき少女ほど可哀想な者はムいません。彼の女は間も無く愛らしい妹を得ましたが、妹と共に優しき眞の母の愛を受くることを得ませんでした。且漸く十二三歳の頃に至つて、賴りとせし只一人の父にさへ先立たれたのでムいます。若く柔き彼の女の胸の中は如何であつたでせう。共に逝かましとも願ひ人の世を恨みもし、儚みもした事でムいませう。少女の兄は未だ年若くして、修業する事も出來ず、早くも世の海に乘り出さねばならぬ事になりました。斯くて彼の女は兄の情けに學校に通はせられて居つたのでムいます。何處に優しげのあるでも無く、人懷しき處の露許りも見ねぬ淋しい少女でムいました素直なそして少女らしい愛らしさもなく、情は剛く少しは捻くれても居るし、人をいぢめる事もある樣で、彼の女に對しては可愛いさの心は、誠に起りにくうムいました。境遇事情を聞ては、そゞろ哀れの催されて、如何にもして優しき心にも觸れしめたく、人の情けの嬉しさも知らせたいと心掛けて居たのでムいます。

少女は多く母を思ひ慕ふ事もなく、母も亦餘りに愛せられない樣でした。近頃彼の女の母は三人の子を殘して、人の勸むるがまゝに他に嫁ぎました。家名をつがせ夫のあとを立てしむる子もあり、生みの娘もある人の、分別なき若者にもあらぬに、生計にも差支へん許りの夫の家、子の家を振り捨てゝ、嫁がれしとは餘りに義理人情知らぬなされ方と、人事乍ら情け無く思ひました、之でも愛の權化とも云はるゝ母と云ふ事が出來ませうか。況して人ば、其財の豐かなるに迷ひしとも云ひ、大家の夫人てふ名に嫁ぎしとも噂致します。今はいつその心悔まるるのでムいます。彼の女の妹は母の許に引取れましたが彼の女は幸せられませんでした、兄は遂に海軍々人として數年間軍務に從ふべく徵し出されて、彼の女の學資ば出る處なく、遂には養はるゝ處とへ無くて、涙乍らに退學する事となつたのでムいます。遠き親戚に養はるゝのだと出て行きましたが、果して養女となるべく行くのか、辛き務するべく行くのか、知るに由なけれど思へば哀れな少女でございます。花ならば未だ蕾の愛らしき二八少女、其淋しき顏には、人の世の憂き苦勞の數々刻まれて居るではムいませんか、私は彼の女の前途を祝福し給へと祈りました。

海の默示

芝乃

波路遥けき海原打眺めて「汝が底深く秘めたりし神秘聞きなむ」と歌ひし詩人に倣ひ、磯の邊り北へと飛ぶ白雲に思ひを馳せて夏の日を過すは、亦よからずや。

深く淸き其表に溢るゝ力、そも何日の頃よりなりけむ、傳へ聞く天地共に新しく闇の光と分たれし世よりにか。今更に力籠りし日は辨へねど、在りし昔に懷かしき思出の緖手繰らばや。彼のガリラヤの海に嵐鎭めませしてふ、世にも尊き物語聞く度毎に、淸新滴る如き歡の泉に觸るゝ心地もすべし。

海の有する勢力に及ぶ物とては無けむ。底に幾多の寶を藏して誇らず、表面を水平に保ちて、悠々迫らざる態度の内に與奪の權を備へ、巨大なる船舶も片々たる白帆も等しく浮ばせて露衒ふ風情も無し。廣く人を迎へ、之に何事をか教へむとして止まざる、宏量果しなき海に對して、人誰か耻ぢざらむ。恩威並び施すなる此の海に臨めば、淸き情念の忽然と涌き出で、身は暫し世を離れて高き思ひに憧れつ。

斯くして得たる温かき默示もて、將た新しき努力もて、嵐なき都をも待たずや。あはれ、心狹きに過ぐる人は海に向ひて親み語れ、心を啓き塵の世の絆を棄てゝ窮りなきの永遠を想へ。然らば、海も益深き默示を垂れむ。海よ、永久に潮湛へて易らざれ。

笑話

むらさき

子供「たかあさん蝶々花を摘んでもいゝの？

母「いけません、きれいですから、たいてたきなさい。

子供「どうして？さつたら蝶々にならないの？

編輯たより

◉鬱陶しかりし梅雨期もやうやく過ぎて、夏はこれより一層緊くなる事ゝ存じます。本月中旬頃迄には大方の學生諸子はなつかしき父母の膝下に歸へられて、積る話しに夜の更くるも知らぬうれしさでございませう。鎭守の森瀨戸の小川、いづれ樂しみ多き月日を送らるゝ事さぞ羨ましく存じます。願くば此際身體の上にも精神の上にも充分の注意を加へられて、一層の修養をつまれん事を望みます。

◉本誌は本號を以て夏期特別號となし、紙數を增大すると共に內容を豐富清新にし、綠蔭のほとり蚊やりの傍に於ける絕好の慰友として諸姉にすゝむる事と致しました。五彩楽爛として人目を眩するやうな現今の婦人雜誌には、所詮摸倣を許さぬ主張と實質とを具備して居る事は一度び本誌を手に取られた方の等しく認めて下さる事と思ひます。

◉特に本號に於ては、消夏の方法に關する諸先輩の開嚳を掲載致しました。悉くこれ女子敎育界有數の名士でありますから、學生諸子のみならず子女を有せらるゝ父兄諸氏にとりて最も有益なる參考となる事と存じます。

◉本號の爲めに集まりし原稿非常に多く、記者の机上に山積してある次第でありますが、紙數の都合にて悉く之を掲載し得ず、之を來月號に廻しましたのは甚だ遺憾でありますが、よろしく御了承を願ひます、本號の爲め特更に御執筆下された方及び記者を引援して下すつた方々に對して御詫を申して置きます。

◉來月號に於ては在英内ヶ崎作三郎氏は更らに稿を起さる可く、洋畫家湯淺一郎氏の西班牙談、谷津理學士のハープスウエルの夏、海老名夫人の自然と小供、片山幽吉氏の北濟見聞記、聖山君の二通の結婚祝賀狀、憐花君の喜美ちやんの日記、淺山氏の新體詩、某夫人の下婢に對する心得、田澤藤郎氏の旅行談等皆とりどりに諸姉に歡迎せらる可く、又本誌同人も益々奮つて執筆する意氣込で御座いますから鶴首して御待あらん事を願ひます。

◉先々月より每號賣切の盛況を呈し逐號部數の增加を致して居るより見て本號も忽ちにして賣切となる事と信じます。此際至急御申込下さらなければ多數の注文に應じ難い遺憾が生ずるかも知れません、右御承知置を願ひます。

◉諸種の投書を歡迎致します。原稿は凡て本社事務處宛御郵送の事。

◉終にのぞみ皆樣の御健康を祈ります。

本誌定價｛一部金拾錢（郵稅ナシ）◎六ヶ月半年分前金六十錢（郵稅ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵稅ナシ）

外國行定價｛壹部金拾四錢（郵稅ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵稅ナシ）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵稅ナシ）

廣告料

廿七字詰一行	四分ノ一頁	半頁	一頁	内表紙十二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金十圓	外表紙拾八圓

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●郵券代用は一割增の計算にて御送附被下度候

御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候。但手數料金壹錢御加へ被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區小日向臺町
三丁目九十三番地
新人社事務所
振替貯金口座一四〇〇五

明治四十三年六月二十六日印刷
明治四十三年七月　一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區小日向臺町三ノ九三　相原一郎介
發行所　東京府下豐島郡巢鴨村大字巢鴨六百六十一番地　新人社
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　東京活版所

最も眞面目に最も親切なる現代婦人の伴侶

婦人くらぶ

七月一日 第參卷第七號 定價十五錢郵稅壹錢 半六冊前金稅共九十錢 十二冊前金稅共壹圓七十四錢

◎杉野兵曹長未亡人を訪ふ（蘇川） ◎西洋料理二種（櫻井ちか子）

▲巖谷小波氏と語る……千曲野 ●薰風小品……兒玉花外▼

◎女學界の大勢（澤柳政太郎） ◎女子大學寮舍生活（夢の浮橋）

▲東京に於ける婦人會の裏面……記者▼

◎社交界五婦人の印象（丘野乙首子） ◎知れるやどり木中の人物（森）

▲新案婦人の腰卷……坂部安江 ●男より見た女……動坂の人▼

◎御還暦に當らせらるる國母陛下記者 ◎日記の中より（荒川澄子）

本誌を知らざる婦人ありや

◎親の權威の衰へんとする傾向……中川健次郎

▲名家の奥向……大伴☐子 ●玉子の殼……水野せん子▼

◎戀に惱み易き妙齡の婦人（三宅博士） ◎運命の手から手へ（常夏女子）

▲着物の色合は如何に配合すべきか……日向きん子▼

◎孤兒院を出で結婚したる三婦人（北川はつ子） ◎生涯の失策（清藤秋子）

▲女學生の姿勢の惡きは帶の締め方にあり……藤村さよ子▼

◎遺兒教育の為寫眞師となりし中佐未亡人……

東京市神田區今川小路二丁目拾番地 紫明社發行 （電話本局三六八四番 振替口座一七五五四番）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人道講話

第六號　七月一日發行

講話主題 **修養に就きて**

文學博士　村上專精先生

一、修養の意義
二、修養の必要なる所以
（以上第一號）
三、修養の必要なる原理―儒教に就きて
四、同―佛教に就きて
（以上第二號）
五、修養の分類
一、身體に對する修養
二、技藝に對する修養
三、智識に對する修養
四、情操に對する修養
五、意志に對する修養
六、最終理想の修養
（以上第三號）
六、教育と修養との關係
七、道德と修養との關係
八、宗教と修養との關係
（以上第四號）
九、修養の目的
一、教育上より見たる修養の目約
二、倫理上より見たる修養の目的
三、宗教上より見たる修養の目的
四、教育倫理及宗教最終の歸着點
（以上第五號）
十、修養の方法
一、修養に志ある者は先づ其の友を選べ
二、修養に志ある者は悪友を善用すべし
三、修養に志ある者は逆境を善用すべし
（以上第六號）

◎本會は誰れにも入會を許す
◎本會々員には毎月本誌を無代にて配頒す
◎會員一年六拾錢入會の際納附の事

見本　金六錢但し五厘切手に限る

發行所　東京小石川區丸山町　振替東京二〇三二四　人道講話會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東伏見宮妃殿下の御愛讀を辱ふす

入會の最好機今日直ちに入會せよ

女子手藝講義錄

内容斯の如く豊富

- 裁縫科（和服洋服） 編物科（各種） 組糸科（各種）
- 刺繍科（和洋各種） 袋物科（各種） 造花科（花卉果實）
- 割烹科（和洋料理和洋菓子） 細工物科（撮細工、綿細工、瓶細工、裁縫細工、押繪接物細工）
- 手藝用圖画科（用器畫、配合法、運筆寫生法圖案法） 手藝教授法……
- 其他課外講義數種

共立女子職業學校
櫻友會内
女子手藝普及會編

壹ケ年修了

入會者の質問は毎號誌上を以て懇切叮寧に解答をなす
優待會員の製作品は審査の上賞品を呈す
壹ケ月入會費 僅に金參拾錢 ●壹ケ年會費 金參圓二十四錢 ●半ケ年會費 金壹圓七十錢
日本の婦人は如何なる事情ありとも此の有益なる講義錄を家庭に備へる必要あり（内容見本入會規定無代進呈）
小中等教員受驗を受けんとする婦人は速に入會せよ

機敏に世の流行を逐うは本會の獨得

入會申込所 東京日本橋角 大倉書店
▶振替口座東京二三八番◀ ▶電話本局四一四番◀

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

羽仁もと子編輯

婦人之友

第三卷 第六號

七月一日 發行

便利なる臺所（口繪）……

健全なる平民的生活……羽仁もと子

根本的の教育……同

父母の訓……同

女中のため（頭と眼を忘れてはゐないか）……同

夏の小兒衞生……醫學博士 加藤照麿

西洋の寢冷しらず……齋藤春代

夜具縫ひなはしの注意……同

わが感心しつゝある家庭（課題）……

主婦の經驗……

○生魚をながく保たせるには○ビールの殘りを豚料理に利用すること○とろゝのだし○單衣の丸洗ひは絞らぬこと○だしがらでんぶ○きび團子○夏の飲みもの○櫻桃のジエレー○古メリヤスのさるまた等

家政問答（大小數種の家計豫算）……

育兒問答（幼稚園の利害、子供に音樂を習はせる可否）……

定價一冊拾貳錢。半年六冊郵稅共六拾五錢。

發行所

東京小石川雜司ケ谷町
振替東京壹壹六〇〇番

婦人之友社

院長診察月、水、木、金午前、松田醫學士診察火、土、午前、窮者施診、火、木、午前、入院診斷後隨時應需、松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用 八九八私宅用）

東洋内科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在）

電話茅ケ崎（二番）

南湖院

河野副長は目下當院に在勤、
院長診察土曜日午後〇同時窮者施診、
副長診察月、火、水、木、金、土、午前
入院診斷後隨時應需、

毎月一日一回發行

本誌愛讀者諸君は

ライオン歯磨を使用したる後啻に口中の爽快を覺ゆるのみならず諸君の歯牙が如何に光澤を有し如何に健强となれるを知りや

ライオン歯磨を用ゐたる時の口中の爽快さ歯牙の清淨さは恰も入浴後に覺ゆる快感に等しきなり

家庭用
美術大罐入

體裁優美にして正味頗る多量而も價格の廉なるが故に家庭用として好評嘖々たり

最も御徳用向

(定價 壹個 金廿五錢)

●試用見本御入用の方は振替貯金又は郵券代用にて申込あれ直ちに郵送す

發賣元 東京市神田區柳原川岸 小林富次郎
振替貯金口座東京二五二六番

支舖 大坂市東區博勞町 清國 天津 漢口

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可 （本號定價郵稅共金拾參錢）

明治四十三年七月一日發行第貳卷第七號